

和気町
地域公共交通網形成計画

平成 30 年 3 月
岡山県和気町

目 次

■ 序章	1
1. 計画策定の目的	1
2. 計画の区域	1
3. 計画の期間	1
4. 計画の位置づけ	1
(1) 上位・関連計画との関係	1
(2) 上位・関連計画の概要	2
■ 第1章 地域の概況	6
1. 地勢と地区区分	6
(1) 位置	6
(2) 地勢	6
2. 人口分布	7
3. 地区別の人口・世帯数	8
■ 第2章 公共交通の概況	11
1. 公共交通の概要	11
2. 地域交通の現状	13
(1) 鉄道（JR山陽本線）	13
(2) 広域路線バス（赤磐・和気線）	14
(3) 和気あいあいタクシー	14
(4) 和気町福祉バス	14
3. 自動車と運転免許の保有状況	15
4. 町の財政負担状況	17
■ 第3章 公共交通の利用実態とニーズの把握	18
1. 住民アンケート調査	19
(1) 利用実態	19
(2) 運転免許返納の可能性	24
2. 乗車調査	26
(1) 和気あいあいタクシー	26
(2) 和気町福祉バス	26

3. 関係者ヒアリング	27
(1) 医療機関	27
(2) 交通事業者	28
(3) デマンドオペレーター	30
4. 関係部局との意見交換	31
(1) 介護保険課	31
(2) 教育委員会	32
■ 第4章 公共交通の問題と課題の整理	33
1. 特徴と問題点	33
2. 取り組むべき課題	34
■ 第5章 計画の理念と基本方針	35
■ 第6章 目的達成のために実施する事業及び評価指標	36
基本方針1：「信頼性」の高い公共交通で、健やかな暮らしを支える	36
目標① 生活を支える交通機能の提供	36
目標② 定時性の担保	36
目標③ 健やかな暮らしの促進に貢献	37
基本方針2：J R和気駅周辺の中心拠点へ人を集め、まちづくりとの 連携により生活の質の向上を支える	38
目標④ 商業施設等との連携	38
目標⑤ 中心拠点内のモビリティ向上	38
目標⑥ 待合スペースの充実	39
基本方針3：公共交通の維持・存続のためのしくみづくりに取り組む	40
目標⑦ 周知活動と利用促進	40
目標⑧ 協働の取り組み推進	40
■ 第7章 事業実施スケジュール	41
1. 実施スケジュール	41
2. 評価・検証	42
3. 評価指標と目標数値	43

■ 序章

1. 計画策定の目的

本町では、人口減少と高齢化が進展する中、新たな交通システムとして導入した「デマンド型乗合タクシー（和気あいあいタクシー）」は、運行開始から 10 年が経過し、現在では利用客が半減している。

一方、高齢者は、現在の自家用車に依存したライフスタイルから、免許返納後に転換する移動手段として最も期待しているのは公共交通で、外出の機会を維持することは健康寿命を延ばすことにも繋がるため、その役割は重要といえる。

また、教育と和気駅周辺をまちの中心拠点とした地方創生の取り組みなど、子育て世代を取り込み人口減少に歯止めをかける施策を行っており、多様な世代に対応することができる利便性の高い公共交通が求められている。

こうした状況を踏まえ、国が進める「まちづくり」と「公共交通」との一体的な推進によるコンパクトな都市構造への転換を見据え、将来にわたって町民の生活と移動を支え、地域の活性化に寄与する持続可能な交通体系の構築に向けた総合的な計画を策定するものである。策定にあたっては、公共交通やまちづくりに関する課題の変化に対応できるよう、行政・交通事業者・町民などの関係者が一丸となって、効果的・効率的な施策展開を推進するための、「和気町地域公共交通網形成計画」を策定する。

2. 計画の区域

和気町全域

3. 計画の期間

平成 30（2018）年度～平成 34（2022）年度（5 年間）

4. 計画の位置づけ

（1）上位・関連計画との関係

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（地域公共交通活性化再生法）」に基づく法定計画であり、和気町の基本的な方向性を示した「第 1 次和気町総合振興計画（H23.3）」を上位計画として、各種関連計画との整合を図り策定する。

・和気町の各種計画

上位計画

- ・第 1 次和気町総合振興計画(H23.3策定)

関連計画

- ・和気町都市計画マスタープラン（H24.3策定）
- ・新町建設計画（H27.3改訂）
- ・和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27.10策定）
など



整合

和気町地域公共交通網形成計画

地域公共交通活性化再生法の一部改正
(H26.11施行)

(2) 上位・関連計画の概要

① 第1次和気町総合振興計画（H23.3 策定）

◆計画期間	平成 23（2011）年度～平成 32（2020）年度
◆基本理念	・個性を尊ぶ、住民主体の活力あるまちづくり ・安全・安心、快適で心安らぐまちづくり ・住む人が愛着を持てる自然と共生するまちづくり
◆まちの将来像	人かがやき 共に支え合う 快適で 健やかなまち
◆基本指標	平成 32（2020）年の <u>目標人口：15,000 人</u>
◆土地利用の基本方針	・各地域における特色と個性を持った土地利用の誘導 ・旧町の核的市街地環境の維持、充実 ・公共施設の統合整備に伴う町有財産の有効利用
◆公共交通に関する施策	・施策 5-2 交通弱者の移動手段の確保 （基本方針） 交通弱者の移動手段を確保するため、公共交通機関の充実を図るとともに、町民が利用しやすい環境整備に努め、公共交通機関の利用を促進します。 （目標・主な取り組み） ◇目標 ・デマンド型乗合タクシー利用者数 <u>H32（2020）年：17,000 人</u> ◇主な事業・取り組み ・デマンド型乗合タクシー事業への支援 ・公共交通機関ネットワークの充実・強化 ・施策 5-8 都市基盤整備（交通結節点、バリアフリー、まちなみ景観など） （基本方針） 町の玄関口である駅前周辺環境整備を行うとともに、生活・交通の利便性を生かし、住宅地の整備を推進するなど、まちの魅力向上を図ります。 また、老若男女の差異や障がいの有無などにかかわらず利用できる施設の整備、社会環境づくり、住民サービスの提供を基本とするユニバーサルデザインの推進を図ります。 （目標・主な取り組み） ◇目標 ・和気駅乗降客数 <u>H32（2020）年：3,200 人</u> ◇主な事業・取り組み ・バリアフリー化の推進

② 和気町都市計画マスタープラン（H24.3 策定）

◆計画期間	平成 24（2012）年度～平成 34（2022）年度
◆都市づくりの理念、基本方針	<u>1. 産業基盤の強化によるまちの持続可能な発展</u> ➢ 基幹産業である農業の振興と農業資源を活用した交流・ふれあいの場の創造 ➢ 企業誘致による新たな雇用環境の創出と、賑わいと自立性のあるまちづくり ➢ 豊富な観光資源の保全と活用による新たな魅力づくりと広域的な交流促進 <u>2. 市街地機能の充実による地域の新たな活力の創造</u> ➢ 陸上交通の要衝、岡山県南東部の玄関口としての魅力ある空間づくり ➢ 駅前市街地における機能の転換による新たな都心空間づくり ➢ 住民ニーズに合わせた利便性の高い商業地の形成 ➢ 土地利用誘導による既成市街地の機能の充実 <u>3. 都市基盤の充実による安全、快適、便利な暮らしの実現</u> ➢ 暮らしの安全を高める防災機能の向上と、盛んな交流を支える交通網の形成 ➢ 誰もが安心・快適に暮らし続けられる住環境の形成と、福祉施策の充実 ➢ 豊かな自然環境の保全と、まちなみ景観の保全・形成
◆都市づくりの将来像	豊かな自然の中で 人が輝き 暮らしの安全と豊かさを実感できる 健やかなまち・和気
◆公共交通に関する施策	第 4 章全体構想 3. 交通体系の方針 （交通体系整備の基本方針） ・安全で快適に移動できる道路空間の整備 ・持続可能な公共交通サービスの確保・提供 ・安全で快適な道路整備 （道路網の整備方針） ・国土連携、広域連携を担う高規格道路の活用 ・安全で円滑な交通環境確保のための幹線道路の整備 ・拠点機能の強化 ・生活道路の整備 （公共交通及び歩行者空間の整備方針） ◇鉄道 和気駅における交通結節点機能の強化、バリアフリー化を進め、分かりやすく、安全に公共交通機関が利用できる環境改善を図り、重要な公共交通機関である鉄道の有効活用を推進します。 また、駅の南北の地区を一帯として利用できるよう連絡道路の整備を検討します。 ◇交通 少子高齢化社会、低環境負荷型社会に対応し、自家用車を使えない人や利用できない、いわゆる交通弱者も便利に生活できる社会を構築するため、より効率的・効果的な運行を、公共交通不便地区への対応なども検討しながら、バス、デマンド型乗合タクシー（和気あいあいタクシー）をはじめとする公共交通サービスの再構築を目指します。

また、都市間交通に対応するバス利用の利便性を高めることなどについても検討を行います。

(人にやさしい歩行者優先の道路整備)

主な福祉施設、文化・教育施設、公共施設等の周辺の道路は、人に優しい歩行者優先の道路整備を推進します。

児童・生徒が通行する通学路は、安全・快適に通行できるように重点的に歩道の整備や歩車共存化を図ります。

〔将来都市構造図〕



③ 和気町まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10 策定）

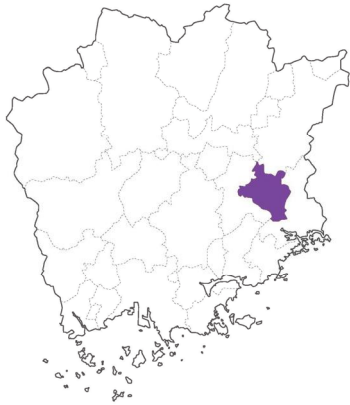
◆計画期間	平成 27（2015）年度～平成 31（2019）年度
◆政策の基本目標	1. <u>和気町の優位性を活かしたまちづくりを推進する</u> ➢ 交通の利便性や災害リスクの低さなどを活かした移住・定住の促進 ➢ 町民に向けた和気町の暮らしやすさの情報の発信 ➢ 教育格差の是正によるひとづくり 2. <u>若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる</u> ➢ 出会いの場の提供、結婚サポート体制の整備による結婚支援 ➢ 出生率の増加に向けた、結婚から育児までの支援 3. <u>和気町への新しい人の流れを作る</u> ➢ 若年層の他地域への転出の防止 ➢ UJ1ターンなどによる若年層の転入の促進 ➢ 若年層が転入しやすい地域づくり 4. <u>和気町内で安定して暮らせるための雇用を創出する</u> ➢ 和気町の優位性を活かした企業誘致 ➢ 企業支援・農業支援による新規雇用の創出 ➢ 和気町民が求める業種の誘致を優遇 ➢ 農作物の特産化を目指した特別支援
◆都市づくりの将来像	人かがやき 共に支え合う 快適で 健やかなまち
◆公共交通に関する施策	6 具体的な施策 (1) 和気町の優位性を活かしたまちづくりを推進する (和気駅周辺の活性化) ◇和気駅の利用促進 和気駅の利用を促進するため、JR沿線自治体と連携し、JRに対して運行サービスの改善等について働きかけます。 ◇公共交通の再編 和気駅周辺を地域の拠点とするため、地域公共交通網形成計画を策定し、町内の公共交通体系を再編することで、駅周辺へのアクセス改善を図ります。また、高齢化が急速に進む中、公共交通機関を利用することが困難な方などの利便性の向上についても併せて検討します。 日常生活に必要なサービス機能を一定エリア内に集約した拠点と周辺集落を公共交通ネットワークで結ぶことにより、住民が安心・快適に暮らし続けていくことができる環境の実現を目指します。 (3) 和気町への新しい人の流れをつくる (移住・定住促進) ◇移住・定住情報の発信 JR山陽線や山陽自動車道など交通の利便性や町内全域の光回線などの生活・社会インフラの充実、地震・津波などの自然災害のリスクが低いなどの本町の優位性を町ホームページ・パンフレットなどで積極的にPRし、移住・定住促進に取り組みます。

■ 第1章 地域の概況

1. 地勢と地区区分

(1) 位置

- 岡山県南東部に位置し、面積 144.21 km²。備前市や赤磐市、美作市などと隣接している。
- 平成 18 (2006) 年 3 月に旧佐伯町と旧和気町が合併し、現在の和気町が発足。
- 町内は 9 地区に分けられる。



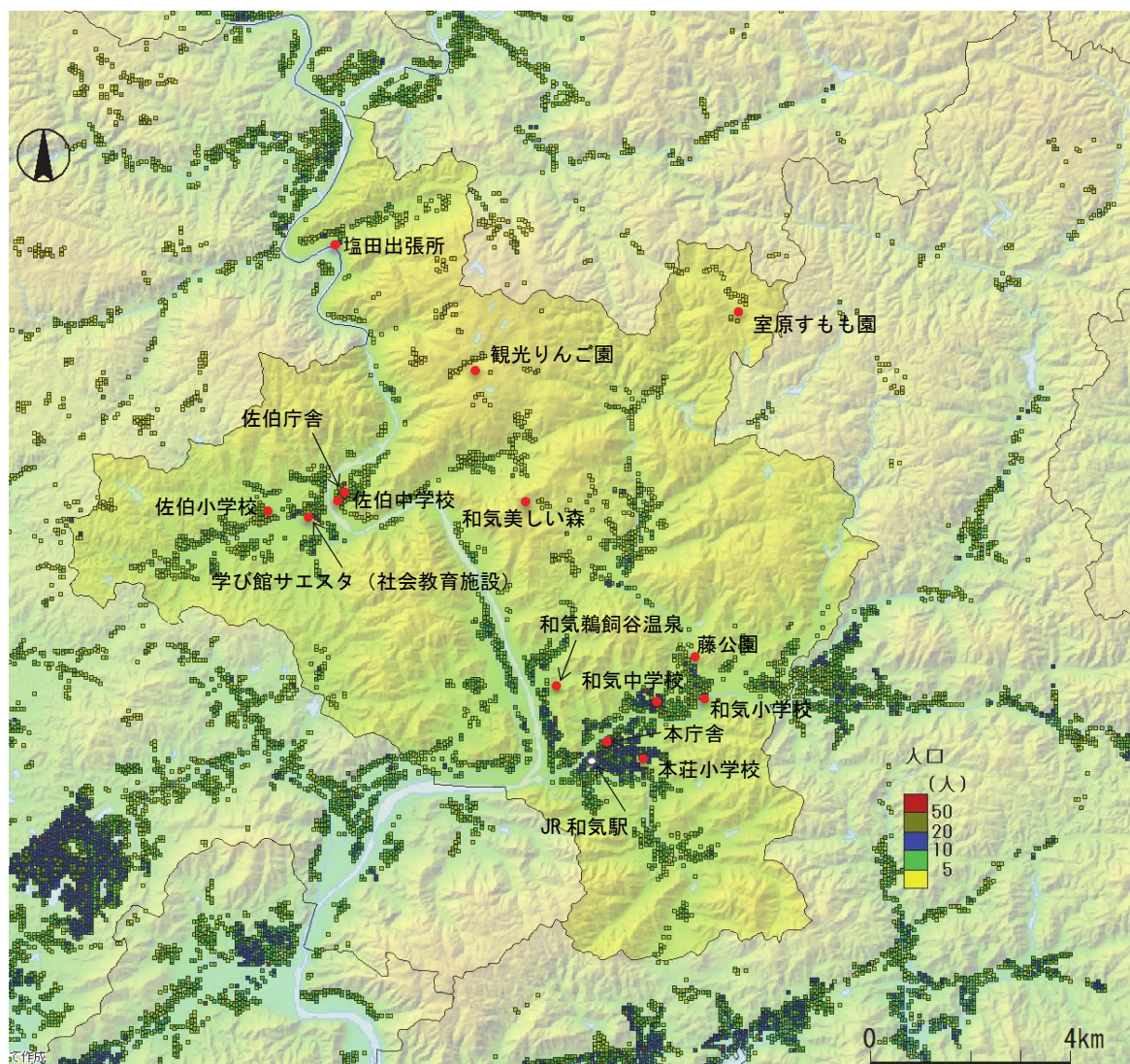
(2) 地勢

- 町の中央を南北に吉井川が貫流し、吉備高原から連なる標高 200～400m の山々に囲まれている。
- 吉井川に沿って国道 374 号が縦断し、東西に和気 IC を擁する山陽自動車道、JR 山陽本線が走り、広域交通の要衝として発展している。



2. 人口分布

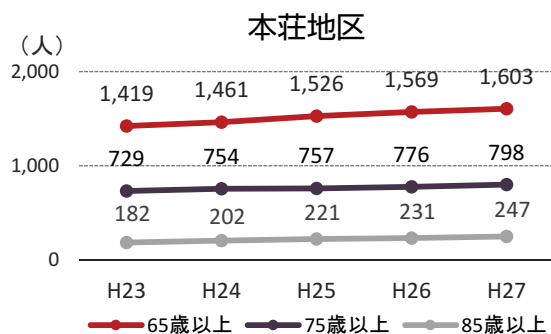
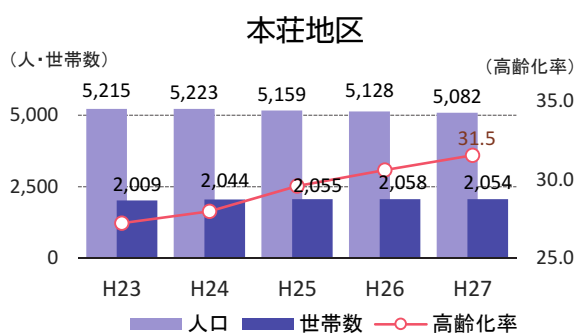
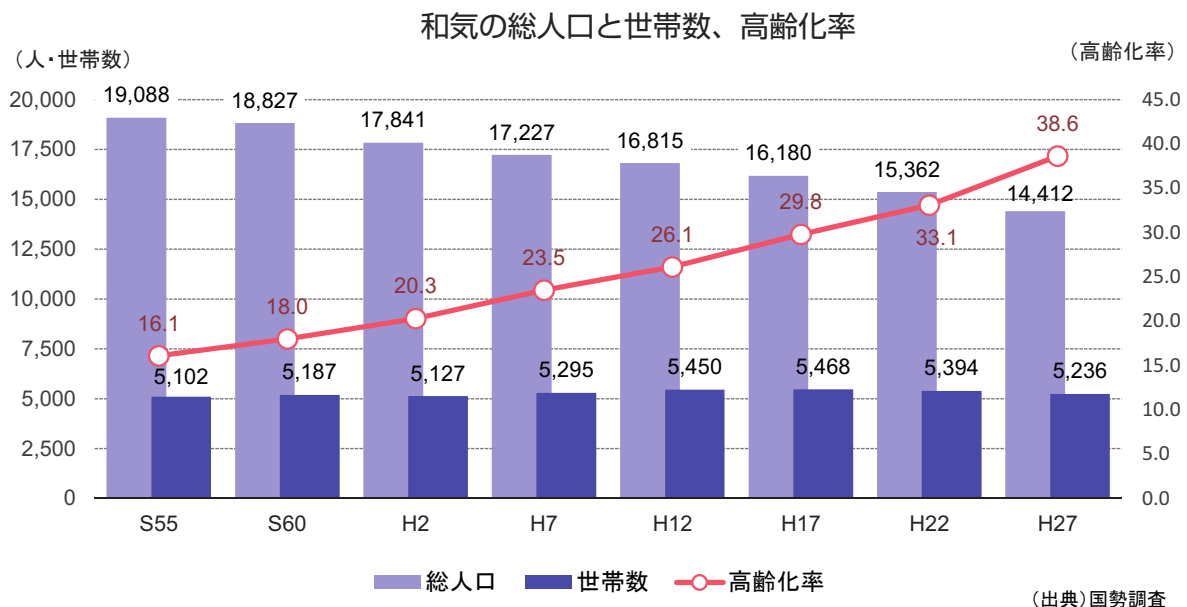
- 吉井川流域の谷沿いを中心に集落が立地。主に旧佐伯町、旧和気町の中心市街地に多く分布し、特に和気駅周辺に人口が集中している。



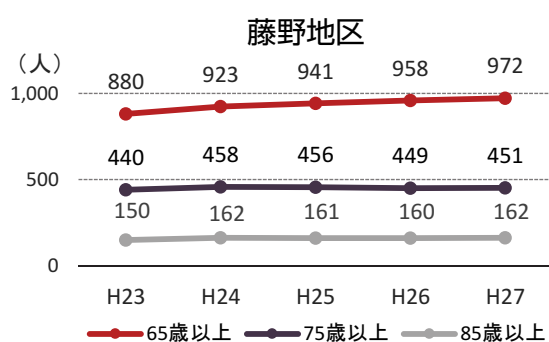
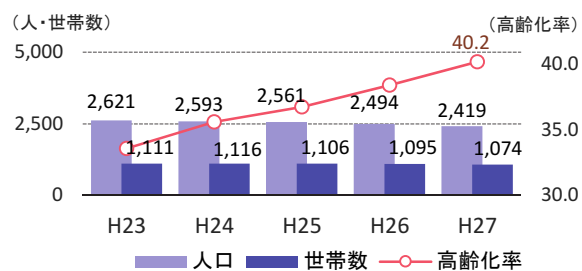
3. 地区別の人口・世帯数

- 総人口は、昭和 55 (1980) 年から平成 27 (2015) 年の 35 年間にかけ 24.5% (4,676 人) 減と、一貫して減少をし続けている。また、高齢化率は年々上昇傾向にあり、直近では 4 割近くとなっている。
- 地区別人口は、すべての地区で減少傾向にあり、高齢化率をみると本荘地区を除きどの地区も 4 割前後と高く、特に塩田地区では 5 割以上と最も高くなっている。
- 65 歳以上、75 歳以上、85 歳以上人口は全体的に増加傾向にあり、交通サービス提供対象者として実数を示す。

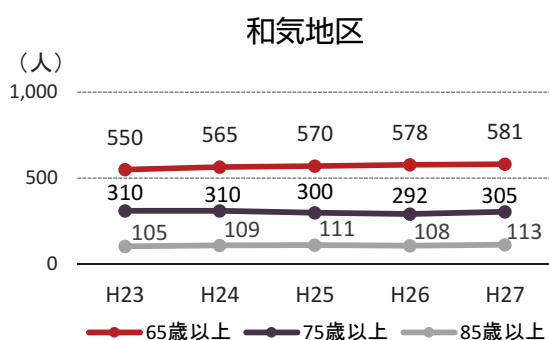
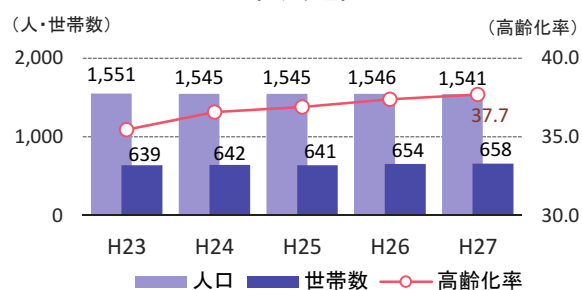
※以下、グラフデータ出典先として、和気町全体の人口・世帯数を「国勢調査」、地区別人口・世帯数を「住民基本台帳」より作成。



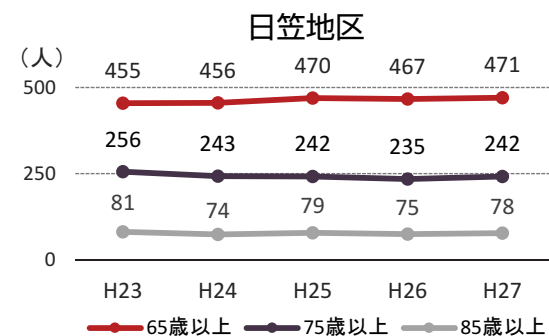
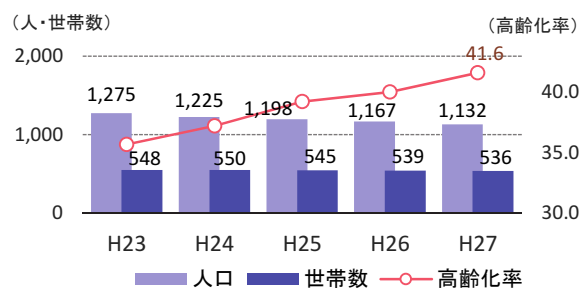
藤野地区



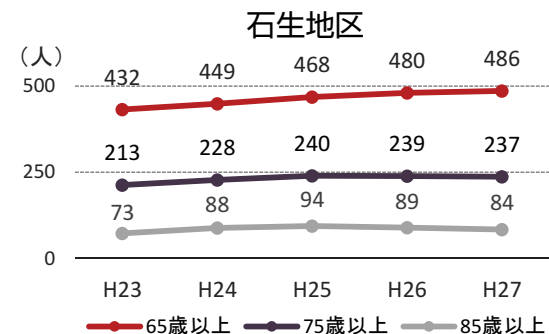
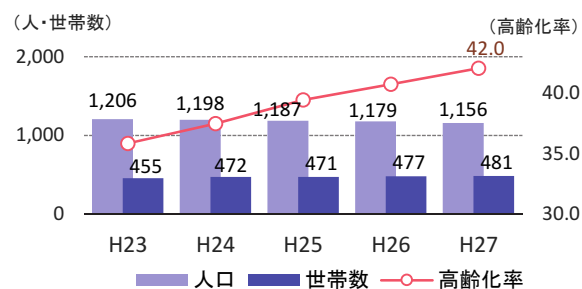
和気地区



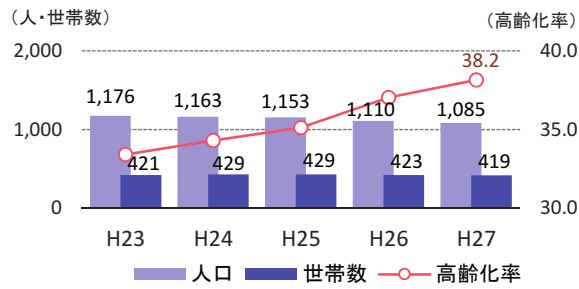
日笠地区



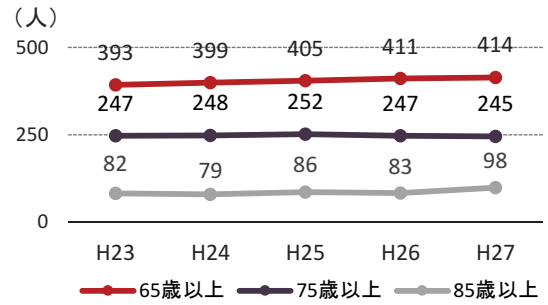
石生地区



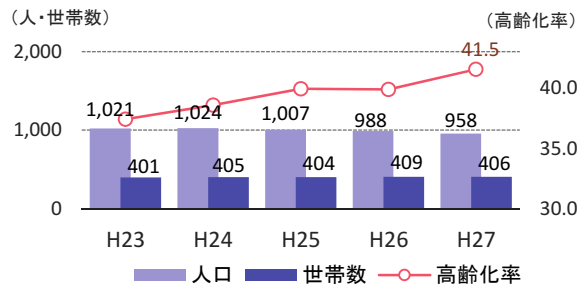
佐伯地区



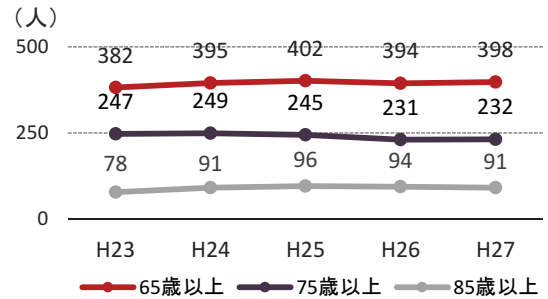
佐伯地区



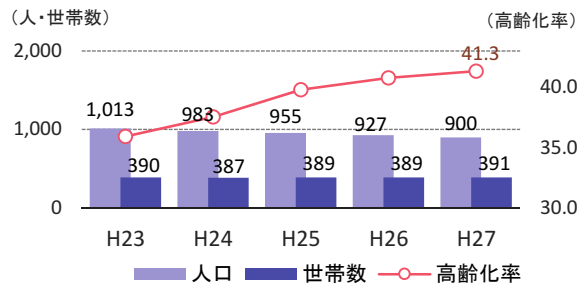
昭和地区



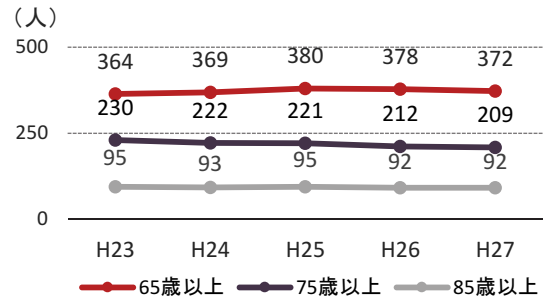
昭和地区



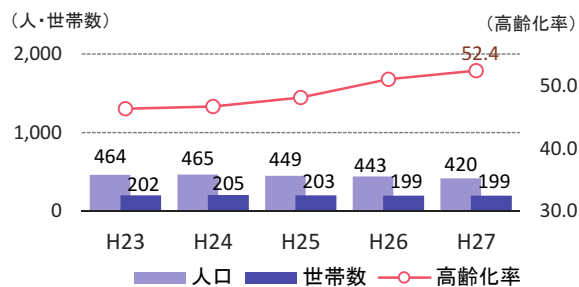
山田地区



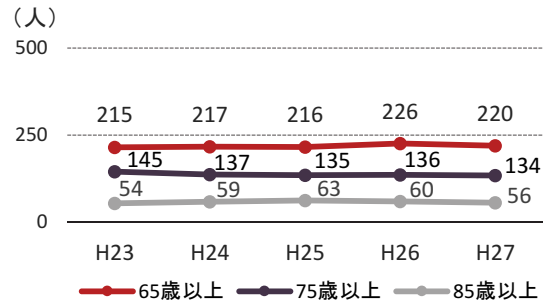
山田地区



塩田地区



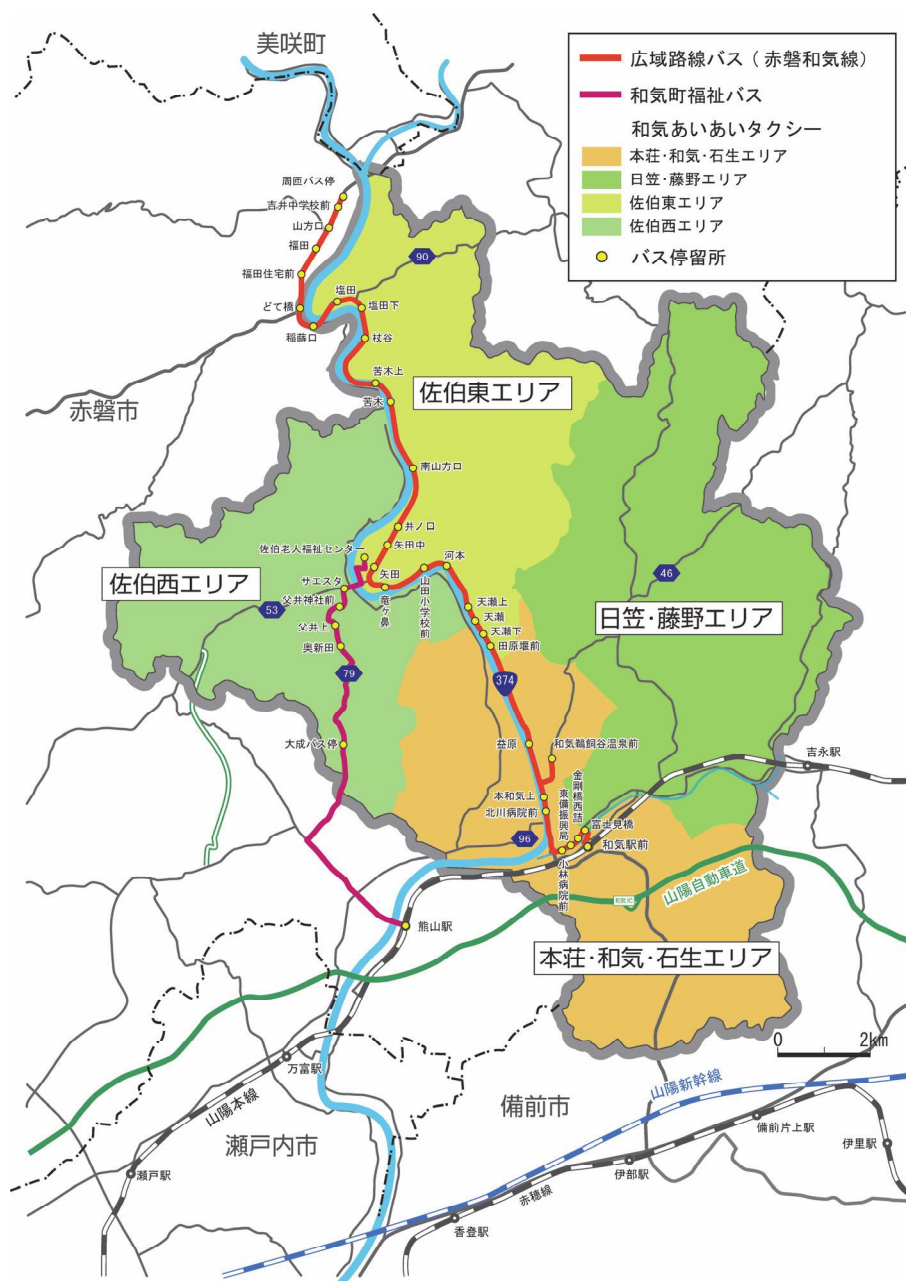
塩田地区



■ 第2章 公共交通の概況

1. 公共交通の概要

- 鉄道は、JR 山陽本線が町南部を東西に横断し、その下を山陽自動車道が並行して走り、南北軸である国道 374 号が和気 IC に接続している。
- 市内を走るバスは、赤磐市周匝～和気駅までを結ぶ広域路線バス（赤磐和気線）が赤磐市と和気町により共同運行されている。また、町が運営する和気町福祉バスは、佐伯老人福祉センター～赤磐市熊山駅間を運行している。
- 町が運営するデマンド型乗合タクシーである和気あいあいタクシーは、4つの運行エリアに分けられ、和気駅周辺の町なかを結ぶ移動手段として全町をカバーしている。



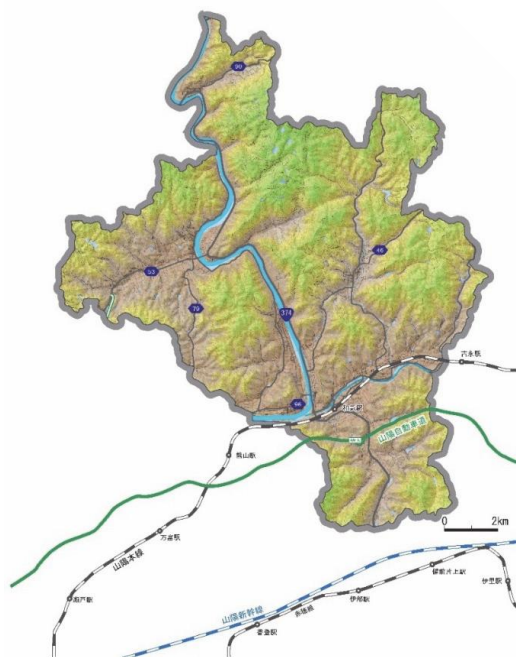
公共交通	内容
広域路線バス（赤磐・和気線） 運行主体：赤磐市、和気町 運行区間：赤磐市周匝～和気駅	◇運行日：月曜～土曜日 （日曜・祝祭日・年末は運休） ◇便数 ● 平日 4 便/日 ● 土曜と 8 月平日 2 便/日 ◇料金：区間料金制（150 円～770 円） ※小学生半額、乳幼児無料、障がい者等と付添者半額 ◇その他：回数券・定期券あり
和気町福祉バス 運行主体：和気町 運行区間：佐伯老人福祉センター～赤磐市熊山駅	◇運行日：月曜日～金曜日（年末年始除く） ◇便数：2 便/日（朝便、夕便） ◇料金：1 回 100 円 ※町内在住の 70 歳以上の方、障がい者手帳所有者、及び 12 歳以下の小児は無料
和気あいあいタクシー 運行主体：和気商工会 運行区間：各地区～町なかエリア	◇運行日：月曜日～金曜日（年末年始除く） ◇便数： ● 各地区→町なか（上り便） 4～5 便/日 ● 町なか→各地区（下り便） 3 便/日 ※各地区（4 エリア） ● 佐伯東エリア、佐伯西エリア、日笠・藤野エリア、本荘・和気・石生エリアの 4 つ。 ● 各エリア内の自宅、共通乗降場所から乗降できる。 ◇料金：1 回 300 円 ◇その他 ● 完全予約制（一週間前から利用時間 30 分前まで） ● 利用者登録（無料）が必要 ● 回数券あり ● 原則、一人で乗り降り可能な人。荷物は膝上に乗るもの。

公共交通	内容
町内限定・定期運行無料送迎サービス 運行主体：和気町 運行区間：和気鵜飼谷温泉～和気駅	◇運行日：月曜日～金曜 ◇便数：1日2便 ◇料金：無料 ◇その他 ・利用は鵜飼谷温泉利用者に限る ・曜日ごとに地区を分け、各地区の出発地点から温泉までを往復。 ・途中下車はできない。
定期タクシー 運行主体：平病院と和気タクシーが共同で運行 運行区間：平病院～和気駅	◇運行日：月～土（土曜日は半日） ◇便数：9便 ◇料金：1回あたり100円 ◇その他 ・ダイヤはJRに接続 ・正規料金との差額は病院側の負担

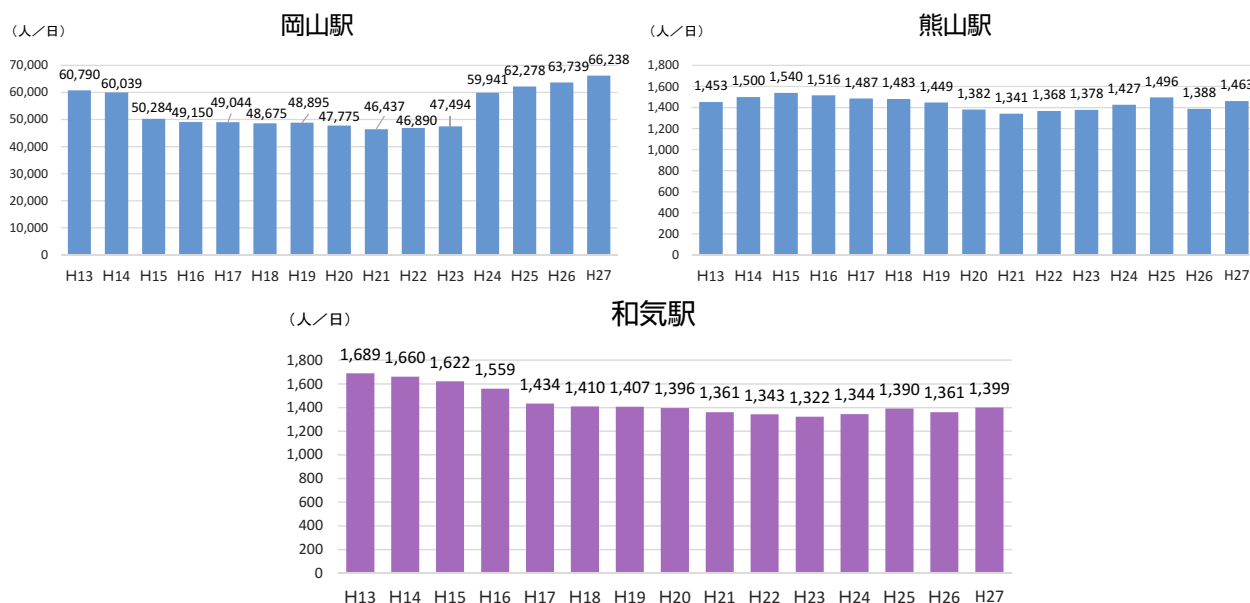
2. 地域交通の現状

(1) 鉄道（JR山陽本線）

- 乗車人員は、岡山駅から県境の三石駅までの区間をみると岡山駅～東岡山駅間の乗車人員が多く、次いで瀬戸駅での乗車が多い。
- 赤磐市熊山駅と和気駅の乗車人員は近年では同程度となっている。
- 和気駅の乗車人員の推移は、近年では減少傾向から横ばいの状態にある。
- 岡山-熊山（赤磐市）、岡山-和気の高校生の通学による1ヶ月定期の差額は180円で、通勤になると2,430円となる。



※西日本旅客鉄道(株)岡山支社、日本貨物鉄道(株)岡山支店



■駅別乗車人員											乗車人員(人/日)	
駅名	岡山	西川原	高島	東岡山	上道	瀬戸	万富	熊山	和気	吉永	三石	
H27	66,238	3,380	3,197	3,637	1,435	2,655	668	1,463	1,399	489	195	
H26	63,739	3,093	3,011	3,396	1,404	2,502	671	1,388	1,361	479	187	
H25	62,278	2,970	2,940	3,376	1,412	2,571	672	1,496	1,390	486	194	
H24	59,941	2,764	2,824	3,178	1,374	2,463	650	1,427	1,344	485	196	
H23	47,494	2,547	2,764	3,148	1,368	2,451	652	1,378	1,322	468	212	
H22	46,890	2,306	2,679	3,107	1,373	2,465	645	1,368	1,343	473	214	
H21	46,437	2,057	2,683	3,036	1,382	2,457	651	1,341	1,361	464	223	
H20	47,775	1,685	2,770	3,111	1,405	2,532	679	1,382	1,396	493	249	
H19	48,895	885	2,936	3,005	1,383	2,542	679	1,449	1,407	497	246	
H18	48,675	-	2,852	2,902	1,369	2,600	710	1,483	1,410	527	255	
H17	49,044	-	2,776	2,907	1,361	2,665	705	1,487	1,434	573	256	
H16	49,150	-	2,746	2,979	1,353	2,722	740	1,516	1,559	598	271	
H15	50,284	-	2,853	3,077	1,389	2,846	741	1,540	1,622	602	280	
H14	60,039	-	2,865	3,092	1,359	2,866	699	1,500	1,660	582	289	
H13	60,790	-	2,967	3,162	1,370	2,875	666	1,453	1,689	588	313	

出典:岡山県統計年報

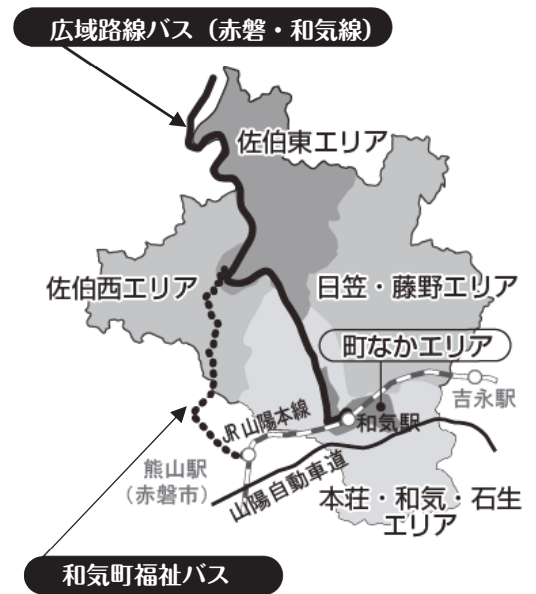
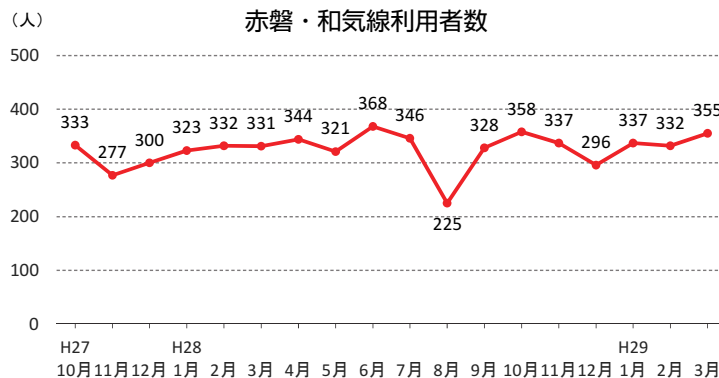
※和気駅パーク＆ライド駐車場(100円)

■定期代												単位:円		
種類	通勤			通学			高校生			中学生				
	1ヶ月	3ヶ月	半年	1ヶ月	3ヶ月	半年	1ヶ月	3ヶ月	半年	1ヶ月	3ヶ月	半年		
和気駅-岡山駅	14,740	42,030	71,540	8,390	23,910	45,320	7,550	21,510	40,780	5,870	16,730	31,720		
熊山駅-岡山駅	12,310	35,080	59,090	8,190	23,340	44,220	7,370	21,000	39,790	5,730	16,330	30,950		
差額	2,430	6,950	12,450	200	570	1,100	180	510	990	140	400	770		

(2) 広域路線バス（赤磐・和気線）

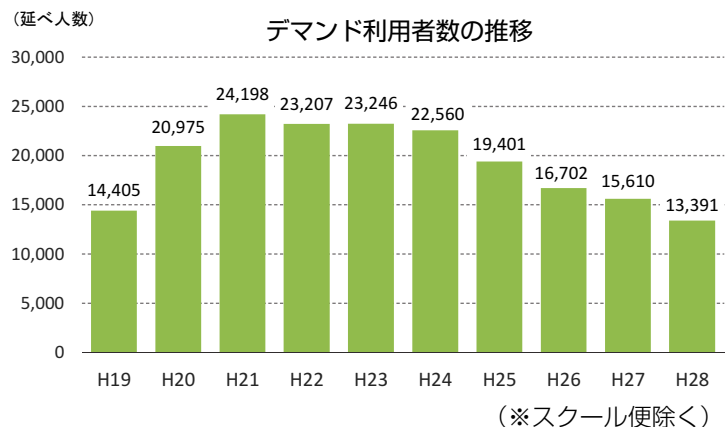
- 平成 27 年 10 月の片鉄バスの廃止を受け、赤磐市と和気町で広域路線バス（赤磐・和気線）を運行し、高校生、通勤、通院、買い物などに利用されている。

（夏休みは減少）



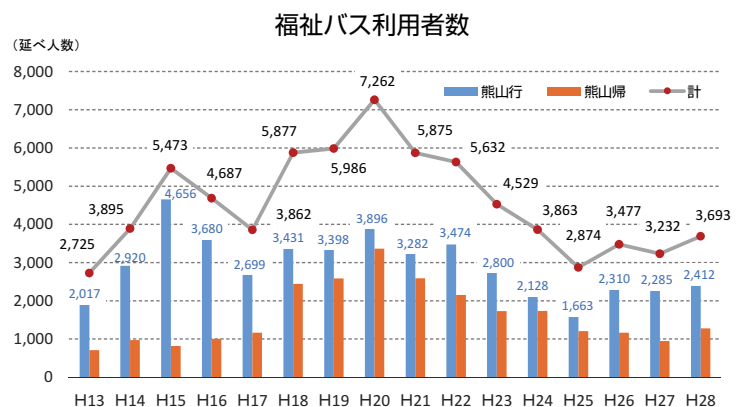
(3) 和気あいあいタクシー

- 利用者は、平成 21 年のピークから減少傾向にあり、平成 28 年には 4 割以上減となっている。理由としては、利用者の高齢化により一人での乗車が困難になったことや、予約が必要、乗車ルールなど利便性が悪いイメージがあるといった理由が考えられる。



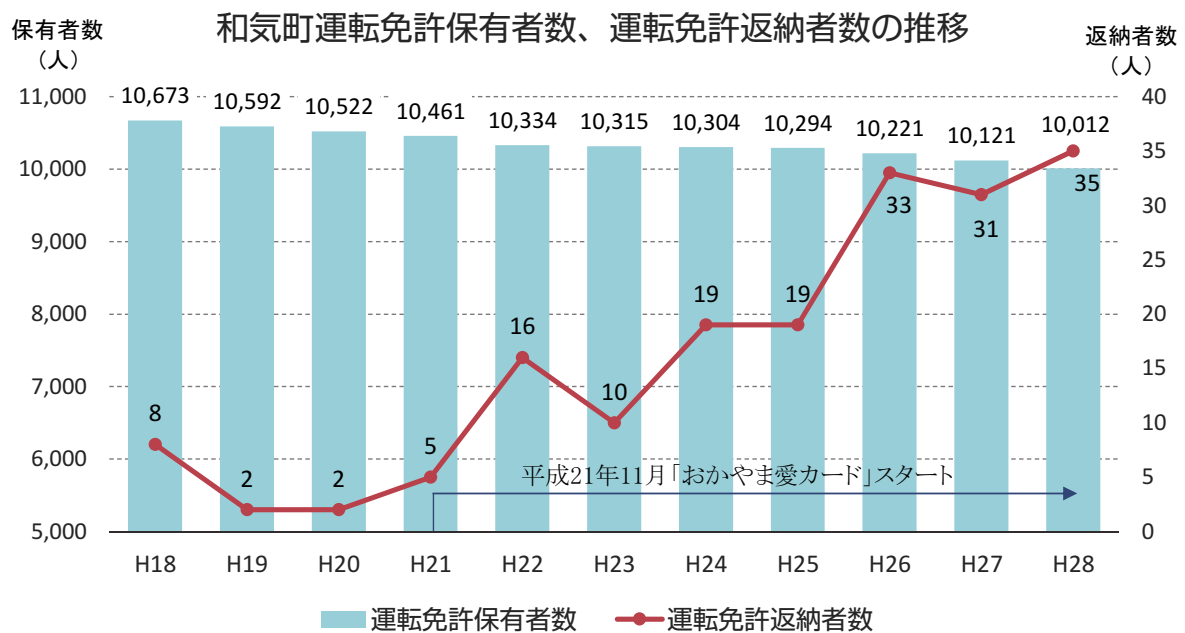
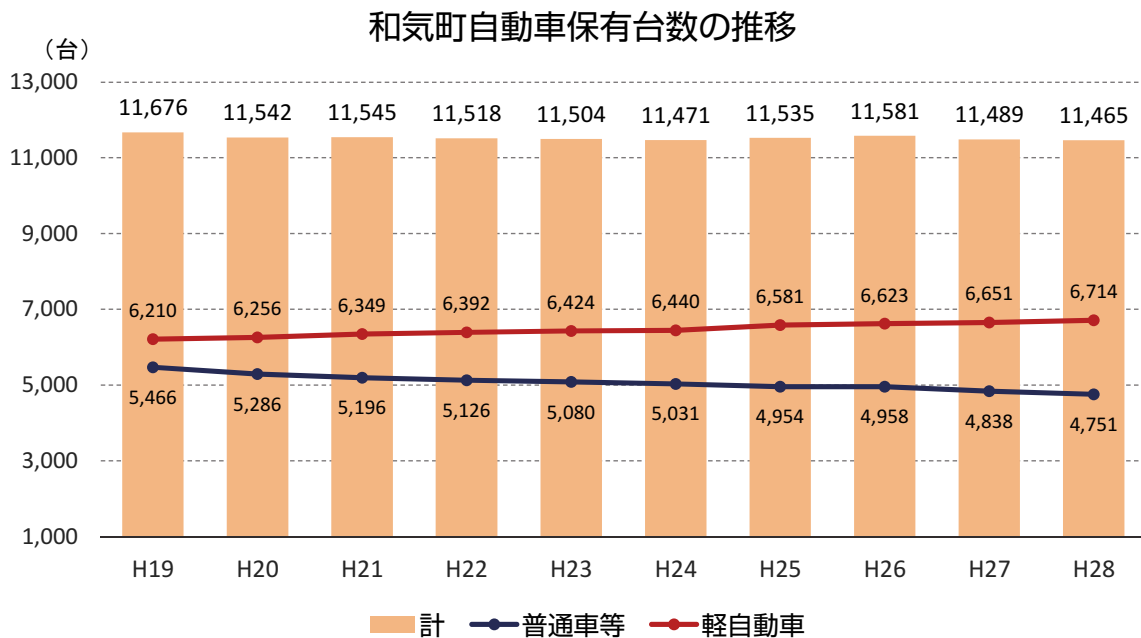
(4) 和気町福祉バス

- 佐伯庁舎から赤磐市の熊山駅までを結ぶ路線で、朝晩の 2 便に限り運行している。電車通学の高校生の乗り継ぎを中心に活用されている。

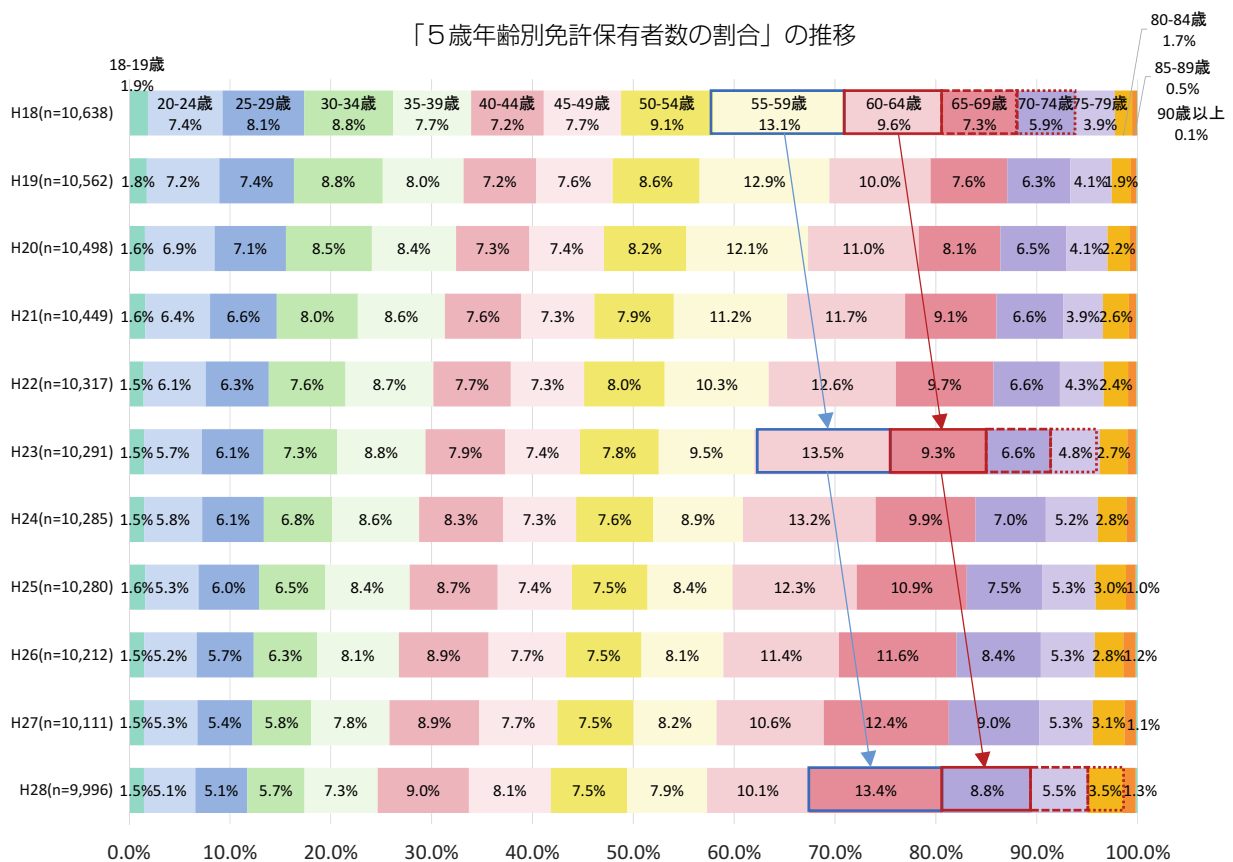


3. 自動車と運転免許の保有状況

- 人口約 14,500 人に対し、自動車保有台数が約 11,500 台と約 8 割が車を所有している。
- 人口約 14,500 人に対し、免許保有者は約 10,000 人と 2 / 3 が保有している。



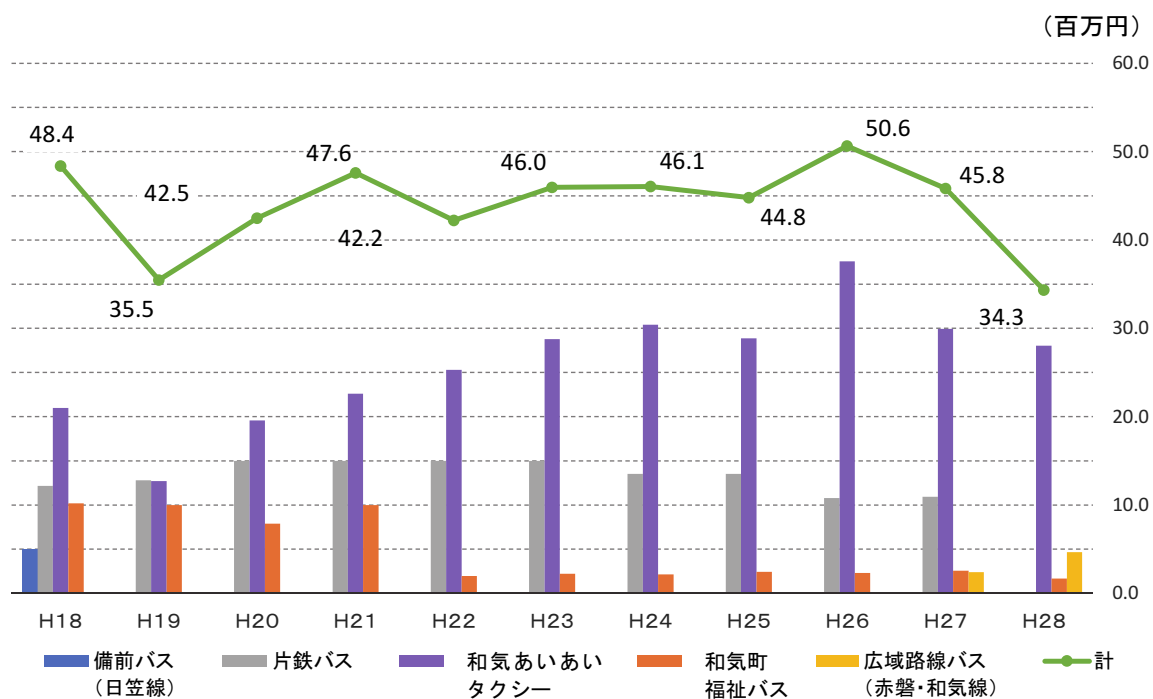
- 65 歳以上の運転免許保有者数の割合は年々増加傾向にあり、近年では 3 割以上を占めている。
- H28 年の 65-69 歳以上の免許保有者について、5 年前、10 年間で比較すると、10 年前 13.1%、5 年前 13.5%、現 13.4%とほとんど変わらない。
- 同様に、H28 年現在の 70-74 歳以上でみると、9.6%、9.3%、8.8%といくらかは免許返納が進んでいるといえる。75-79 歳以上では、7.3%、6.6%、5.5%、80 歳以上では、5.9%、4.8%、3.5%となっている。



4. 町の財政負担状況

- 備前バス（日笠線）、片鉄バスの廃止により、負担額上昇が抑制されている。
- 和気あいあいタクシーは、年間約3千万円となっている(システム更新年除く)。
- ひとりあたり運行経費では、和気町福祉バスは減少し、和気あいあいタクシーは増加している。

公共交通に係る町負担額



ひとりあたり運行経費の推移

単位:円

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
和気あいあい タクシー	626	753	772	895	1,011	1,131	1,214	1,712	1,701	2,092
和気町福祉バス	3,352	1,086	1,704	347	484	554	844	659	789	454
広域路線バス (赤磐・和気線)	—	—	—	—	—	—	—	—	1,269	1,178

第3章 公共交通の利用実態とニーズの把握

和気町における公共交通の利用実態、及びニーズを把握するため、地域住民、和気あいあいタクシー利用者、医療施設、交通事業者、行政関係部局を対象とした調査を実施した。

◆調査の概要

調査名	調査対象	調査日・調査方法																										
1. 住民 アンケート調査	- 和気町在住の全世帯の住民 (5,900 世帯) - 世帯員 6 名まで対象 (小学生以上)	- 平成 28 年 12 月 21 日 (水) ～平成 29 年 1 月 10 日 (火) - アンケート票の記入 - 自治会を通して各世帯へ 直接配布 郵送による回収																										
	<table><tr><th>配布数</th><th colspan="2">回収数</th><th>回収率</th></tr><tr><td rowspan="7">5,900 世帯</td><td>世帯票(個人票も揃っているもの)</td><td>1,852</td><td>31.4%</td></tr><tr><td>個人票(世帯票も揃っているもの)</td><td>4,461</td><td>-</td></tr><tr><td>無効票</td><td>363</td><td>-</td></tr><tr><td>世帯票のみ回収</td><td>37</td><td>-</td></tr><tr><td>個人票のみ回収</td><td>229</td><td>-</td></tr><tr><td>その他無効と判断したもの</td><td>3</td><td>-</td></tr><tr><td>締切り後に回収</td><td>94</td><td>-</td></tr></table>		配布数	回収数		回収率	5,900 世帯	世帯票(個人票も揃っているもの)	1,852	31.4%	個人票(世帯票も揃っているもの)	4,461	-	無効票	363	-	世帯票のみ回収	37	-	個人票のみ回収	229	-	その他無効と判断したもの	3	-	締切り後に回収	94	-
	配布数	回収数		回収率																								
	5,900 世帯	世帯票(個人票も揃っているもの)	1,852	31.4%																								
		個人票(世帯票も揃っているもの)	4,461	-																								
無効票		363	-																									
世帯票のみ回収		37	-																									
個人票のみ回収		229	-																									
その他無効と判断したもの		3	-																									
締切り後に回収		94	-																									
2. 乗車調査	和気あいあいタクシー	- 平成 29 年 2 月 16 日 (木) 本荘・和気・石生 - 平成 29 年 2 月 28 日 (火) 日笠・藤野、佐伯西、佐伯東 - 調査員による乗り込み調査																										
	和気町福祉バス	- 平成 29 年 2 月 17 日 (金) - 調査員による乗り込み調査																										
3. ヒアリング調査	医療機関 (2 箇所) ・北川病院 ・平病院	- 平成 29 年 2 月 17 日 (金) 3 月 1 日 (水) - インタビュー形式の聞き取り調査																										
	- 交通事業者 (2 箇所) ・和気タクシー ・佐伯タクシー - デマンドオペレーター	- 平成 29 年 3 月 1 日 (水) 3 月 7 日 (火) 3 月 9 日 (木) - インタビュー形式の聞き取り調査																										
4. 意見交換	- 和気町民生福祉部介護保険課 - 和気町教育委員会	- 平成 29 年 3 月 1 日 (水) 平成 30 年 3 月 20 日 (火) - 直接面談形式、調査票記入																										

1. 住民アンケート調査

(1) 利用実態

① 公共交通の認知度と利用状況

- 和気あいあいタクシーの認知度は7割と高いが、実際の利用には繋がっていない。
- 和気町福祉バスや広域路線バス（赤磐・和気線）は対象となるエリアが限定されているため認知度も低い。

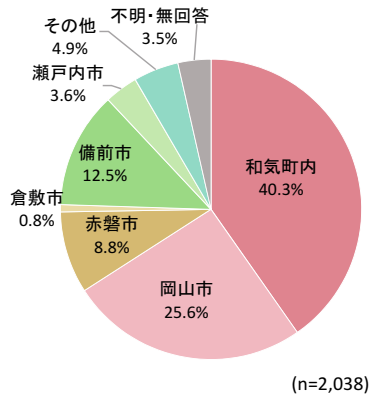


交通手段	(1) 認知度と利用状況	(2) 現在の利用目的
和気あいあいタクシー	(n=4,461) ■ 知らなかった ■ 知っていたが、利用者登録（無料）はしていない ■ 利用者登録（無料）をしているが、1回も利用したことがない ■ 利用者登録（無料）をしているが、あまり利用していない ■ 利用者登録（無料）をして、利用している ■ 不明・無回答	(複数回答) (n=891) 利用していない 42.0% 通院で利用 10.5% 買い物で利用 6.6% 通学で利用 0.4% 通勤で利用 0.2% その他 3.5% 不明・無回答 42.0%
和気町福祉バス	(n=4,461) ■ 知らなかった ■ 知っていたが、1回も利用したことがない ■ 知っていたが、あまり利用していない ■ 利用している ■ 不明・無回答	(複数回答) (n=605) 利用していない 12.7% 通院で利用 2.6% 通学で利用 2.5% 買い物で利用 2.1% 通勤で利用 0.5% その他 2.3% 不明・無回答 79.5%
広域路線バス (赤磐・和気線)	(n=4,461) ■ 知らなかった ■ 知っていたが、1回も利用したことがない ■ 知っていたが、あまり利用していない ■ 利用している ■ 不明・無回答	(複数回答) (n=534) 利用していない 9.2% 通院で利用 2.6% 買い物で利用 2.2% 通学で利用 0.7% 通勤で利用 0.4% その他 2.1% 不明・無回答 84.8%

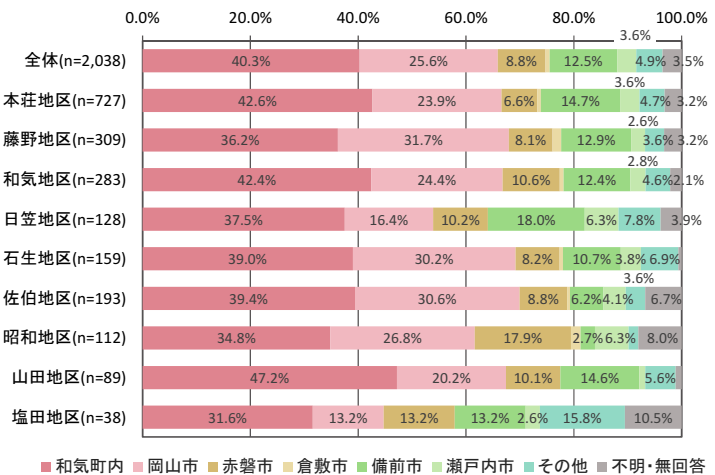
② 通勤・通学と移動手段

- 通勤・通学の目的地は町内が40.3%、次いで岡山市25.6%、備前市12.5%、赤磐市8.8%。
- 交通手段は約7割が自分で運転して通勤しているが、JR和気駅の利用も約1割。
- 石生・佐伯・昭和からは和気町福祉バスの目的地であるJR熊山駅の利用もみられる。

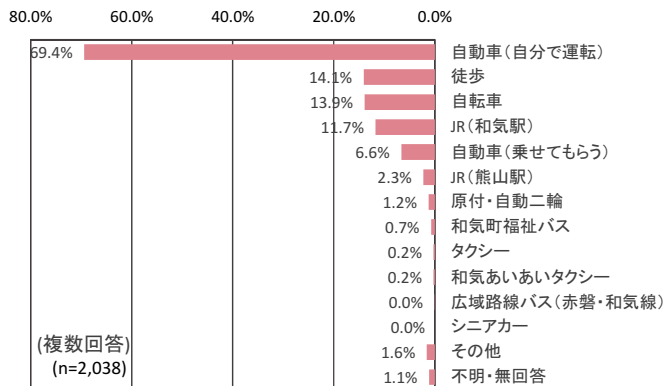
(目的地)



(地区別の目的地)



(交通手段)



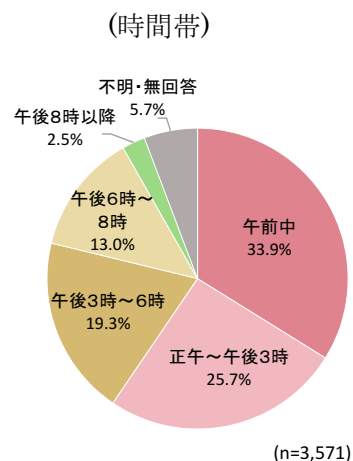
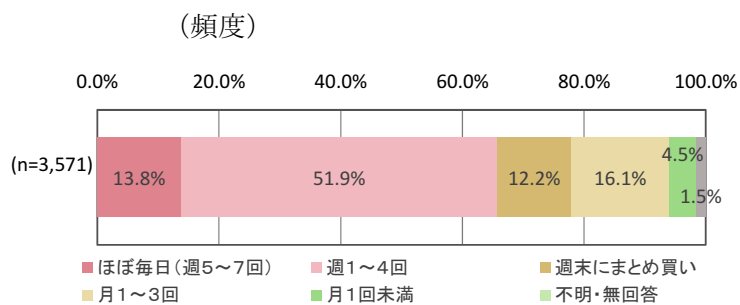
(地区別実数)

地区	JR和気駅	JR熊山駅	和気町福祉バス	和気あいあいタクシー	広域路線バス(赤磐・和気線)	(人)
本荘地区	107	0	0	0	0	0
藤野地区	49	0	1	0	0	0
和気地区	41	0	0	0	0	0
日笠地区	10	0	0	1	0	0
石生地区	19	13	0	0	0	0
佐伯地区	5	18	7	3	0	0
昭和地区	4	12	2	0	0	0
山田地区	1	3	5	1	1	1
塩田地区	3	0	0	0	0	0
計	239	46	15	5	1	1

(複数回答)

③ 買い物と移動手段

- 約 65%が週に何度も買い物に出かけ、約 60%が午後 3 時までに帰宅する。
- 買い物の目的地で最も多いのは、和気駅周辺の中心拠点にある大型施設。
- 和気町北部の赤磐市周匝への買い物需要もある。
- 約 75%が自分で運転して買い物に出かけ、乗せてもらう約 17%も合わせると全体の 9 割以上。



(目的地)

【全地区】

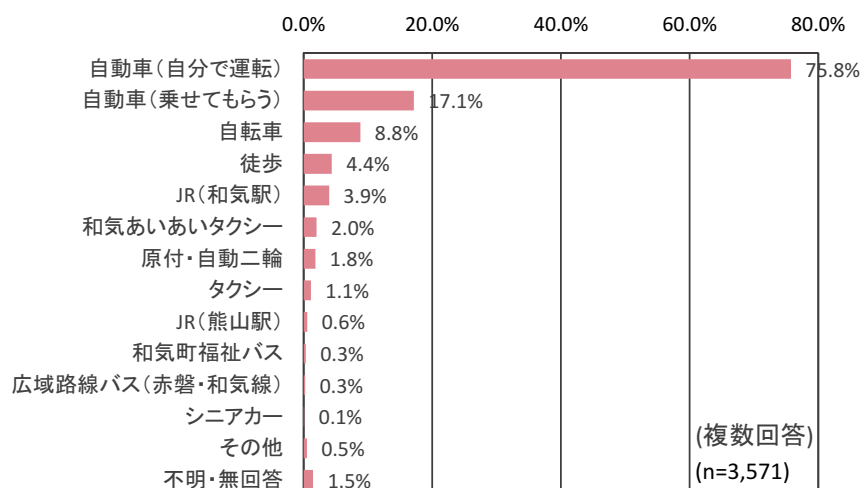
順位	名称	人数	所在地
1	ザ・ビッグ 和気店(イオンタウン和気)	2,188	和気町
2	天満屋ハピーズ 和気店	851	和気町
3	百菜市場和気店(旧JAグリーン和気店)	691	和気町
4	ゴダイドラッグ和気店	449	和気町
5	山陽マルナカ 山陽店	357	赤磐市
6	ザグザグ 和気店	298	和気町
7	ホームプラザナフコ 和気店	265	和気町
8	ハッピーマート 吉井店	228	赤磐市
9	山陽マルナカ 備前店	136	備前市
10	タカハラティオ吉井店	121	赤磐市

n=3,571

和気駅周辺の中心拠点に立地

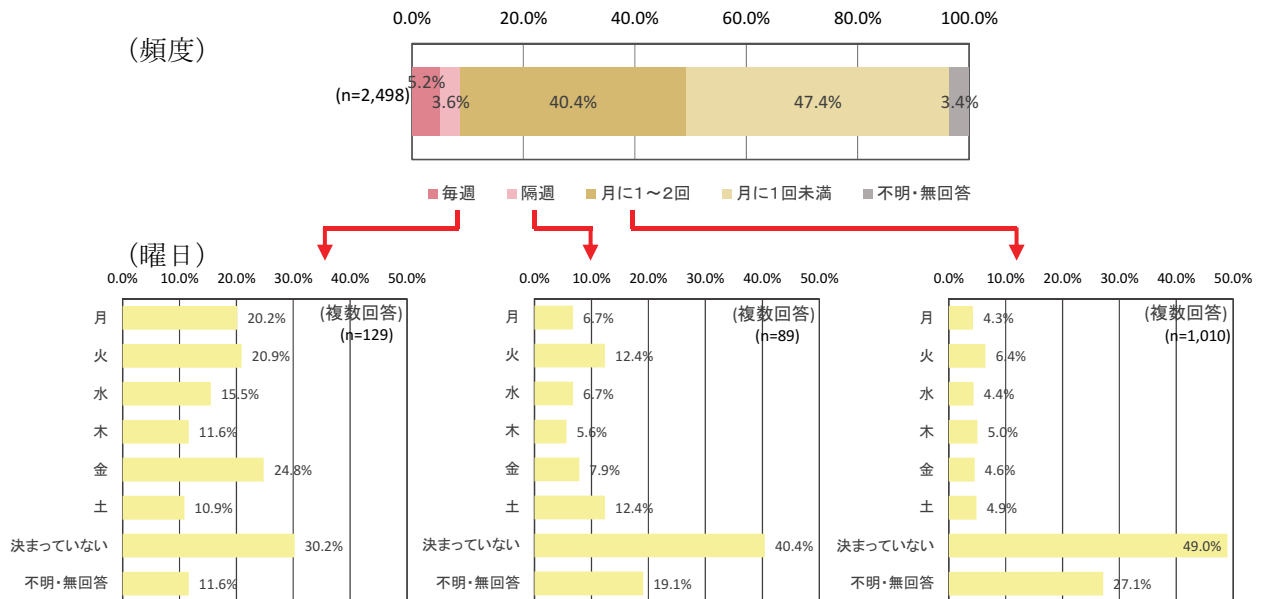
和気町北側の赤磐市周匝に立地

(交通手段)

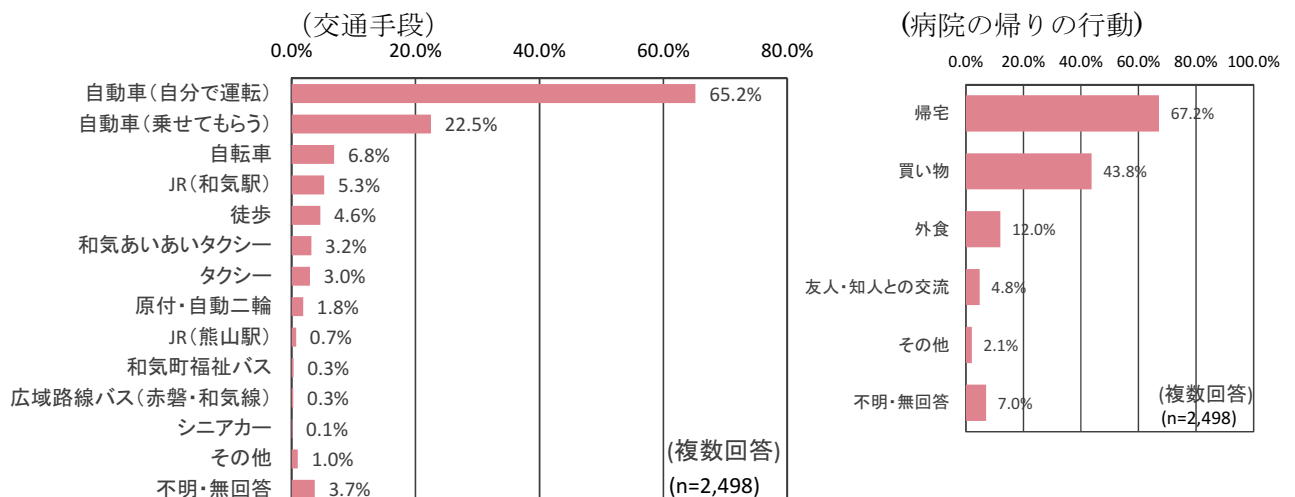


④ 通院と移動手段

- 通院している人の約半数は月に1回以上病院を受診し、指定された曜日の受診もある。
- 通院の目的地で多いのは北川病院、平病院、なかつか眼科と、町なかエリアにある。
- 約65%が自分で運転して通院しているが、買い物と違い自分で受診する必要があるため、自分で運転する割合が1割減少し「乗せてもらう」「和気あいあいタクシー」「タクシー」が増える。
- 病院帰りの行動は、帰宅が約70%と多く、次いで買い物約4割（複数回答）。

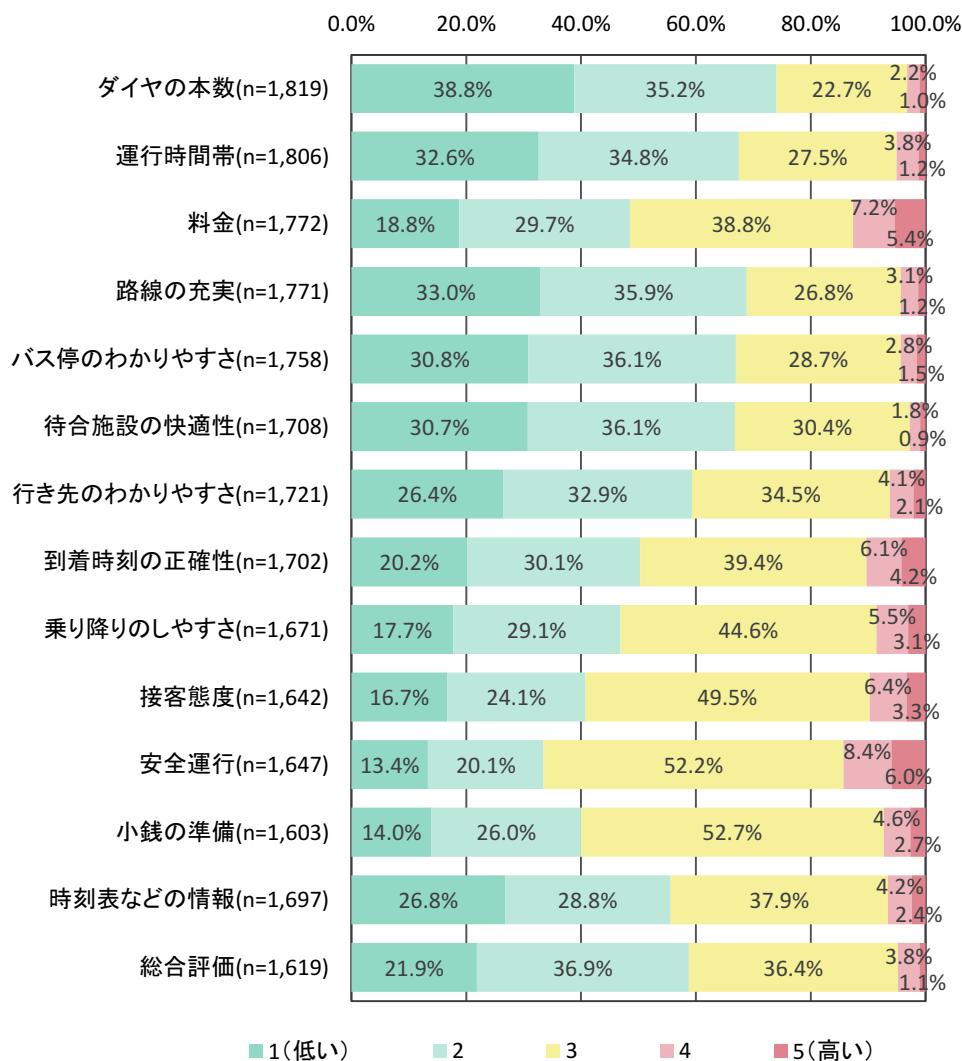


【全地区】 (目的地)				n=2,498
順位	名称	人数	所在地	
1	北川病院	651	和気町	町なかエリアに立地 ←和気町東部に隣接する 旧吉永町に立地
2	平病院	494	和気町	
3	なかつか眼科	251	和気町	
4	備前市立吉永病院	227	備前市	佐伯の学び館サエスタ(社会教育施設) 近くに立地
5	大田原医院	185	和気町	
6	小谷医院	153	和気町	
7	国立病院機構 岡山医療センター	81	岡山市	
8	岡山東部脳神経外科東備クリニック	80	岡山市	
9	和気町内病院(名称不明)	73	和気町	
10	洪藤医院	70	和気町	



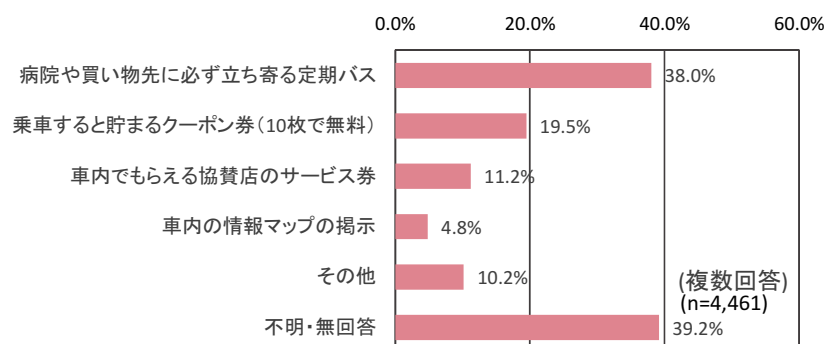
⑤ 公共交通に関する満足度

- 公共交通に関する満足度は、満足を表す「4・5」が総合評価で約5%と低い。
- 全体的に満足度は低く、中でも「ダイヤの本数」「待合施設の快適性」は総合評価を下回る。
- 一方、「安全走行」「料金」はやや高めで、満足を表す「4・5」が10%を超える。



⑥ 公共交通に求めるサービス

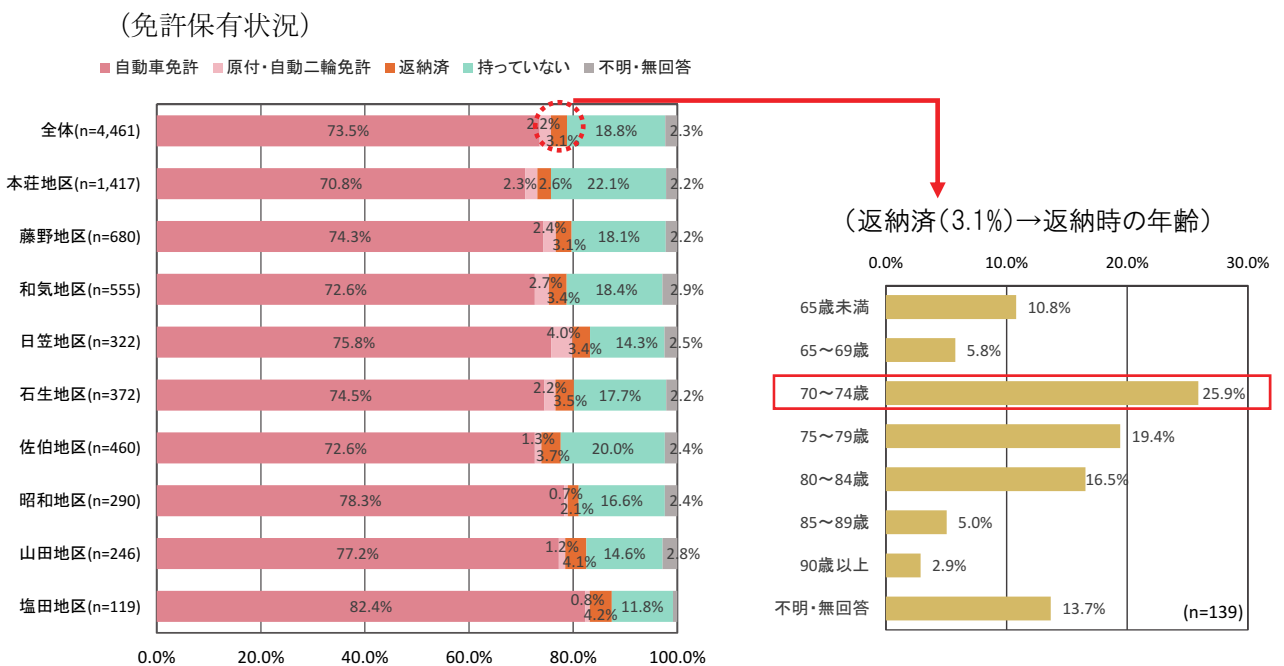
- どのようなサービスがあれば公共交通を利用したいかでは、**病院や買い物先に必ず立ち寄る定期バス** 38.0%、**クーポン券** 19.5%、**サービス券** 11.2%という結果となった。



(2) 運転免許返納の可能性

① 運転免許の保有状況

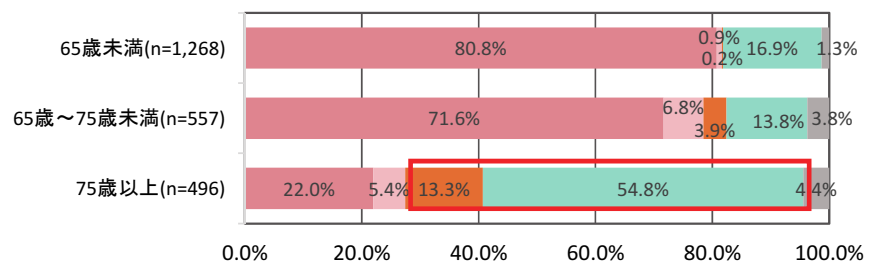
- 現在、自動車免許を保有している人は全体で 73.5%。
- 和気駅から最も遠い「塩田地区」では 82.4%に上る。
- 返納済みと回答した人 139 名に対し、返納時の年齢を聞いたところ 70～74 歳が最も多く 25.9%、次いで 75～79 歳 19.4%、80～84 歳 16.5%で、70 歳未満での返納はわずか 15%程度であった。
- 免許を持たず、公共交通に頼ることが考えられる対象は、75 歳以上の女性で、「免許を持っていない」と回答した人が半数を超えている。



【男性】

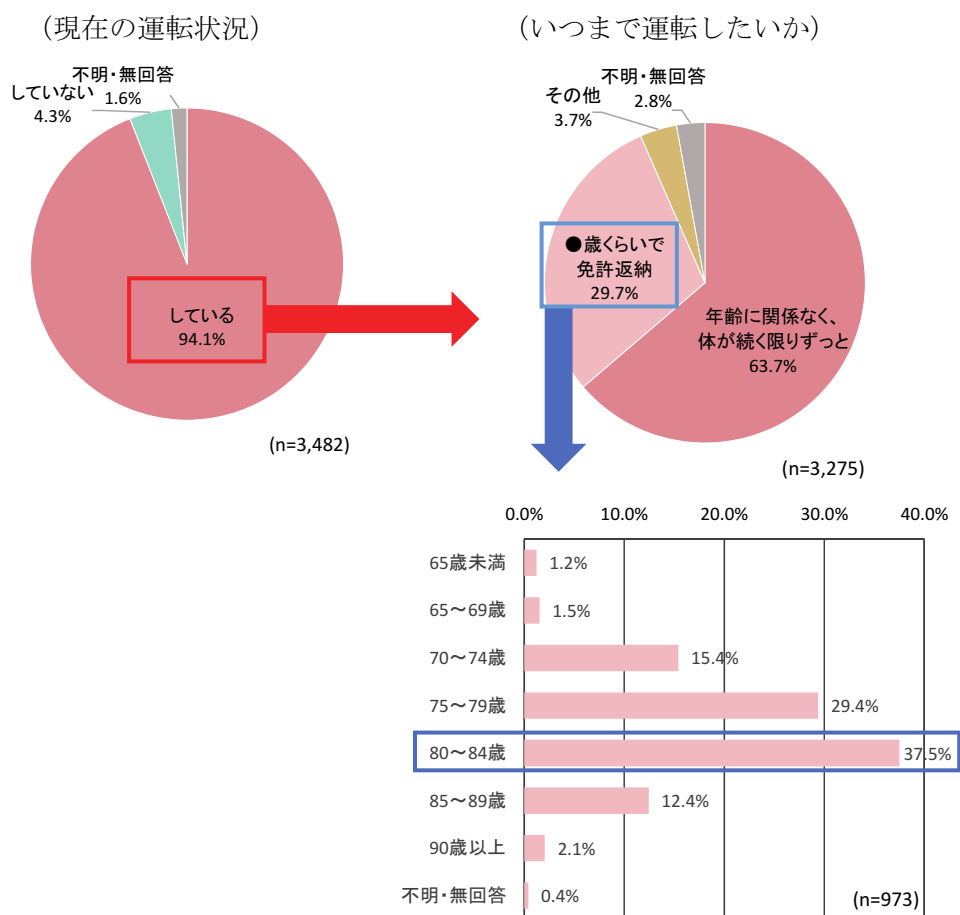


【女性】

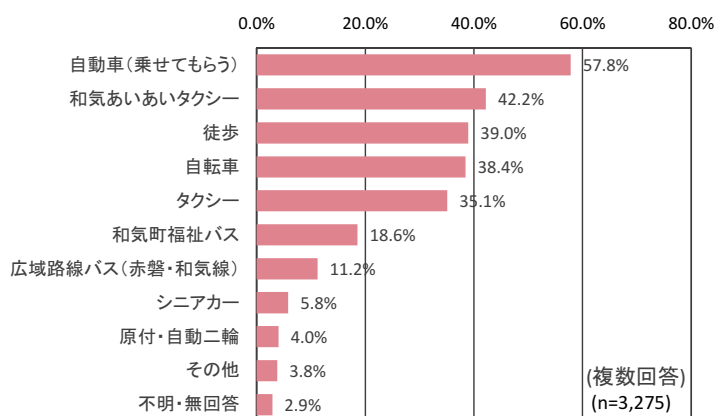


② 運転免許返納の見込み

- 免許を保有している人で、現在運転しているのは94.1%とほとんどが運転している。
- いつまで運転したいかは、年齢に関係なく体が動く限りずっと63.7%と多い。
- 免許を返納する年齢については、80～84歳が37.5%となっている。
- 一方で免許を返納した場合の移動手段は、乗せてもらうが最も多いが、和気あいあいタクシーやタクシーの需要もある。



(免許を返納した後の移動手段)



2. 乗車調査

(1) 和気あいあいタクシー

◆ヒアリング結果のまとめ

	利用実態における問題点
乗客ヒアリング	● 病院や店舗に雨風を凌げる待合スペースやベンチがない。 ● 歩行器や買い物時に利用する手押し車（シルバーカー）と一緒に載せてほしい。 ● 車両の段差が大きく乗降が困難。 ● 荷物制限は買い物袋ひとつ分では厳しいのでもっと積めるようにしてほしい。 ● 高い頻度で利用されている方に人気があるため、予約がとれない場合もある。 ● 和気町との境界近くに住む備前市の人は和気町の施設を利用する機会も多いが和気あいあいタクシーを利用できない。（隣町の知り合いからよく言われる） ● 佐伯西・佐伯東はスーパーの閉鎖により、食料品などを和気駅周辺まで買いに行かなければならない。 ● 佐伯西・佐伯東は、エリアが広範囲であるため、順番が最後の方になると、外で待つ時間が長いと感じる。
乗務員ヒアリング	● 高齢者は乗降に時間が掛かる点、また乗降場所におらず探しにくいなど利用者側の問題などにより到着から出発までに余分な時間が掛かり、後の運行が遅れる。 ● 一般のタクシーと同じサービス（荷物や介助）が受けられるとの誤解がある。 ● 積雪時の運行中止への苦情など利用者側と安全運行に対する認識の違いがある。 ● 佐伯西・佐伯東は、1時間以内で往復し、次のスタートに間に合わせるというのはかなり時間に追われる中での運行である。 ● 遠距離の利用者の予約が重なったときには次の便にしてもらうなどの場合がある。特に9時便、10時便の予約が時間的に厳しい印象。 ● 予約係と現場の運転手の時間的、地理的認識の連携不足による無理な予約の発生が生じている。

<参考> 和気あいあいタクシーの運行経緯

H19（2007）年 3 月	・ 借上げ車両 3 台、交通事業者 3 社により和気地域でスタート。 ・ 運行エリアを交通事業者がローテーションする仕組み。 ・ 通学困難者（中学校 1 校、小学校 2 校）対応でスクール便併用。
H20（2008）年 11 月	・ 佐伯地域に拡大し、全町をカバーするようになる。 ・ ジャンボタクシー 5 台、交通事業者 3 社で運行。
H27（2015）年 10 月	・ 事業撤退により、交通事業者 2 社、ジャンボタクシー 4 台で運行。

(2) 和気町福祉バス

実施日	平成 29 年 2 月 17 日（金）
利用動向	高校生、中学生、小学生の通学の移動手段として欠かせない便。一般利用もあり。
主な意見・要望	● 100 円という安さで利用でき、親の手を借りずに済むので嬉しい。 ● 佐伯～和気の便を望みます。 ● 6 時台と 19 時台の JR に合う便があるともっと利用しやすい。 ● 夕方の便がもう少しあると利用しやすい。 ● 土日の運行がないので困っています。 ● 10 分程遅いと良い。 ● 寒いときに暖房が効かないのが辛い。
問題点・課題	● 熊山行きは、ほとんどが「学び館サエスタ（社会教育施設）周辺」からの乗車であり、利用者から希望のある和気駅への変更も可能だが、熊山帰りは「大成バス停」での乗降があるため別途検討が必要。

3. 関係者ヒアリング

(1) 医療機関

① 北川病院

実施日	平成 29 年 2 月 17 日（金）	ヒアリング先	北川病院 地域医療連携室
公共交通	広域路線バス（赤磐・和気線）：最寄りバス停「北川病院前」 和気あいあいタクシー：本荘・和気・石生エリア		
利用動向	患者さんとそのご家族に対して、移動手段、買い物支援、食材の宅配、配色のサービスの紹介など様々な相談窓口として機能している。		
主な意見・要望	<和気あいあいタクシーについて> ● タクシー利用もあるが、特に介護タクシーは高額で利用者さんの負担が大きい。 ● 和気あいあいタクシー自体は安くて喜ばれている。 ● 高齢化が進み、歩行器、手押し車の利用が増えている。 ● 予約制なので、急に診療が必要になった時、診察時間が押して予約時間に間に合わなかった時への対応もお願いしたい。 ● 土日祝日の運行を望む声が多く、特に土曜日の運行の要望がある。また、泌尿器科は土曜日のみ受診受付。 <広域路線バス（赤磐・和気線）> ● バス停の間隔を狭めることはできないのか。		
問題点・課題	<和気あいあいタクシーについて> ● 病院に来る方にとって、1人で乗り降りできるという利用条件は厳しい。 ● 酸素ボンベを伴っていないといけない人も乗降できない。 ● 高齢化が進み、歩行器、手押し車の利用が増えている。 <広域路線バス（赤磐・和気線）> ● 国道は交通量も多く、横断するのに危険。土手の急な坂を上り下りするのも病人には負担が大きく、下の道まで降りてもらえないかと思う。 <その他> ● 寒い日、暑い日、患者さんが外で待つのは辛く、建物内で待つ人が多い。気づかず置いて行かれることもある。		

② 平病院

実施日	平成 29 年 3 月 1 日（水）	ヒアリング先	平病院
公共交通	和気あいあいタクシー：本荘・和気・石生エリア 100 円タクシー（和気駅～平病院） 平病院と和気タクシーが共同で定期タクシーを運行。1 名 100 円で平病院～和気駅間を運行し、ダイヤは JR に接続。相乗りで正規料金との差額分を病院が負担。		
利用動向	じん肺の診療に定評があり、吉永町（備前市）やその他の地域から JR を利用して通院している人も多い。 和気駅の近くにあった病院が現在の場所に移転してきた経緯があり、和気駅から病院までの定期タクシーの移動経費を負担している。		

主な意見・要望	<和気あいあいタクシーについて> ● 佐伯地区の「つるの里クリニック」が閉鎖となるため、平病院の他に北川病院、渋藤病院で患者を受入れることになる。診療所は送迎もしていたので、今後は佐伯地区の和気あいあいタクシーの需要が高まるのではないかと。 ● 佐伯方面の定期便があると良い。特に、正午から 15 時頃までの時間帯にあると良い。午前便で来院し、15 時便で帰るという行動が考えられる。 ● 受付を通してアナウンスをすとか、声掛けを行うのは難しいのか。 <その他> ● 広域路線バス（赤磐・和気線）を少し延伸して平病院に寄ってもらうことができないか。 ● 介護タクシーの助成があると助かる。 ● 外来の待ち時間に加え、迎えの時間を待つ人でも利用してもらえるように図書コーナーを設置している。和気あいあいタクシーの予約が多いときなどに利用してもらえる。
問題点・課題	● 本数が少なく、予約が取れないと聞く。 ● 段差があり、乗降しにくいと聞く。 ● 荷物は膝の上にのる範囲内しか乗せられない、歩行器は不可などルールが厳しいと聞く。病院に来られる方は歩行器がなければ歩けない人もいて困っている様子。 ● お年寄りに寒い中を外で待たせるのはかわいそうに思う。

(2) 交通事業者

① 和気タクシー

実施日	平成 29 年 3 月 9 日（木）	ヒアリング先	(株)和気タクシー
主な意見・要望	● 元々、和気地域で始まった運行形態をそのまま佐伯地域まで拡大し運行しているので無理がある。日笠・藤野エリアや本荘・和気・石生エリアは現行のままとしても、佐伯西エリア、佐伯東エリアは定時定路線までのフィーダーが現実的ではないか。 ● 1 時間で往復し、次の一軒目に備えるとなると 1 往復を 45 分スパンで運行することになり、この縛りがロスを生じさせていると思う。1 本 2 時間枠でダイヤを組んでみると断ることが少なくなるのではないかと。 ● 利用者にも安全運行のための協力や、他のお客さんに迷惑にならないように身だしなみや荷物の量や種類などに気をつける歩み寄りをしてもらいたい。		
問題点・課題	● 佐伯東エリアは 1 時間で和気駅周辺まで往復しようとする無理がある。 ● 車輌は 10 名まで乗れるが、1 時間の縛りがあるため、家々を回って乗せるとなると数名までとなってしまう。5 軒まわるのは無理なのが現実。 ● 以前にはあった予備車輌の小型がない。 ● 安全な乗り降り、スピードを出さない安全運行、急ハンドル、急発進をしない快適走行となるとそれなりに時間が掛かることになる。		
改善策	● 佐伯東エリアなどは、隣の集落まで谷を越えて行かなければならず、廻れる家が限られる。近所の人や友達がまとまって乗る「お誘い」の仕組みをとるなど乗客の協力も促す必要がある。谷の集落毎に廻る曜日を定めるのもひとつの方法。 ● ドア to ドアではなく、定時定路線を走らせ、そこまでをデマンドで補完するような仕組みを考えても良いのではないかと。 ● 1 人で乗り降りできない人は、総合的な相談窓口である「包括支援センター」に相談し、福祉タクシー車輌を使ってもらう方法もある。		

② 佐伯タクシー

実施日	平成 29 年 3 月 7 日（火）	ヒアリング先	佐伯タクシー
主な意見・要望	● 通院で使われる方で、帰りの便も予約して利用される方は高頻度利用者である。 ● 1 番目の予約の人は定時スタートだが、途中で何軒も廻るのでお待たせすることになる。挨拶代わりに「遅いね～、随分待ったわ～」と言われるのは運行側も辛い。 ● 利用者の減少は、利用者の高齢化により利用できなくなったためだけではない。安全第一を考え、自分で乗り降りできない人はお断りしている。無理して多く乗せるのではなく、安全運行で 1 時間の枠内で次のスタートができるように利用者を狭めている。 ● オペレーターが何件も予約を入れた場合、実際の地形を考えて支障があると判断した場合は運転手が断ることもある。 ● 和気あいあいタクシーの広報活動をもっとしっかりする。 ● 和気駅や主な施設には「和気あいあいタクシー」「広域バス」などの名前を付けたベンチや乗り場がわかるものがあったら良いと思う。 ● 佐伯町の頃は、サービスとしてタクシーチケットを毎月 1,000 円分配り、年間 3 万かかるところが自己負担 18,000 円ですむというものがあつた。もっとタクシーも上手く活用してほしい。 ● 移動にはお金がかかり、生活費の一部だということをもっと浸透させてほしい。		
問題点・課題	● 台数が 5 台体制だった頃は、日笠・藤野の上り下りを 2 台で受け持っていた。以前の体制であれば廻れるところも多かったが、現在はかなり減っている。実質、運行側が 2 分の 1 になったので当然といえば当然である。 ● 日笠・藤野の場合、JR 線を横断できるところが限られているため、廻って迎えに行く場合、遠回りとなり時間がかさむ。 ● 土日はジャンボタクシーの予約やスクールバス対応で車輛を使うため、デマンド運行に対応できない。 ● 現在のエリアは広すぎるので、小さいエリアに絞り、曜日毎の運行にする。例えば、現在の 4 エリアを 8 エリアにし、月水金、火木土の 2 種類の運行にする。特に佐伯東、日笠・藤野エリアは絞る必要を感じる。		
改善案	● 狭い道に入れる車輛で運行する。 ● 予約がいっぱいの場合、タクシーの乗合で補完する。 ● 現在の「和気あいあいタクシー」に加え、乗車拒否となってしまう人を対象とした福祉車両での乗合タクシーを追加する方法もある。福祉車両が空いているので考えてみてはどうか。 ● 利用者の状態によってサービスを分ける。段階的な利用形態。 特に福祉タクシーのデマンド相乗のニーズは高いと思う。 ・ 1 人で乗り降り可能な人 : 定時定路線 ・ 家まで迎えが必要な人 : 和気あいあいタクシー ・ 現在和気あいあいタクシー : 福祉タクシー（和気あいあいタクシーの福祉版）に乗れない人 ● 学び館サエスタ（社会教育施設）をターミナルにし、トイレやベンチがあれば、学び館サエスタ（社会教育施設）と和気中心部を定時定路線で強化する方法もある。		

(3) デマンドオペレーター

実施日	平成 29 年 3 月 1 日（水）	ヒアリング先	デマンドオペレーター
主な意見・要望	● 電話で予約を受け付けるため、「言った」「言わない」などのトラブルや、連絡なしのキャンセル（すっぽかし）はある。 ● 1 便に数名しか乗れない場合、後からの予約をとれないことがある。 ● 佐伯東便はエリアが広く、和気駅周辺との距離が遠いため、予約がとれない率が高く、「いつだったら乗れるの？」と叱られることもしばしば。 ● 1 番目の人が時間通りに出ていないと定刻発車してしまう。何軒も廻る予定で次が詰まっている場合は仕方がないかもしれないが、1 人だけの時などは臨機応変に対応してはいけないのだろうか。 ● 発車後に電話をもらってもその方の家に電話することもできない。声掛けや優しい対応をしてはダメなのだろうか。それが当たり前になってしまうからと言われる。		
問題点・課題	● 1 時間のなかで何軒か廻り、和気駅周辺まで行き、戻って次の定時スタートを予約 1 番目の人の家から始めるとなると一度に廻れる軒数が限られる。 ● 佐伯の方などは待ち時間も長く、寒い時期に外で数十分待つのはかわいそうに思う。北川病院などは外で待つにもベンチがなく、寒い中で辛そうである。 ● ひとりで乗り降りできるかどうか、ギリギリのラインの人が乗れない状況にある（乗車拒否やいつも予約がいっぱいで乗れないなど）。		

4. 関係部局との意見交換

(1) 介護保険課

実施日	平成 29 年 3 月 1 日（水）	ヒアリング先	和気町民生福祉部介護保険課
主な意見・要望	● 免許を返納する時期というのは、杖や歩行器、シルバーカーが必要となる時期と重なる。 ● 現在、要介護の認定を受けている方は前期高齢者約 2,600 人のうち約 3%、後期高齢者約 2,800 人のうち約 30%という状況であるが、移動手段が他になく、和気あいあいタクシーの乗車を断られている現状がある。買い物に毎回タクシーを利用するなど経済的にも負担が大きく、外出する機会が極端に減少している。 ● 85 歳で免許を返納した場合、歩行器を使ってでも外出するのと、家の中にじっとしているのとでは認知症になるかならないか肝になる年齢。会話や行動の刺激による認知症予防のためにも外出機会をサポートすることができないだろうか。 ● 現在は吉永町（備前市）への便がなく、吉永便を要望する声を聞く。 ● 比較的自分で動くことができる前期高齢者や、歩行器があれば歩ける人に対し、定期便を充実させてほしい。		
問題点・課題	● 公共交通を必要としている高齢者（免許がない、または返納済み）が和気あいあいタクシーの利用を断られているという話を多く聞く。 ● 和気あいあいタクシー乗車拒否された方に、清潔にすること、大人おむつを着用して乗車するなど個人的な願いをするなど個別の対応もしているが拒否解除の状態には至っていない。他にもいくつかのケースがある。		
改善策	● 買い物サポートなどもあるが、通院サポートのような仕組みができないか。 ● ボランティアの方の力を借りてバス停での乗降介助、場合によっては通院介助も可能と思う。自宅前での乗降時間や定時路線でバス停に何時と時間が決まっていれば、介助もサポートしてもらえだろうし、通院介助となれば、数時間同行することもできる。 ● 福祉有償運送などを利用して外出機会を持てないか。		

(2) 教育委員会

実施日	平成 30 年 3 月 20 日 (火)	調 査 先	和気町教育委員会
スクールバスの運行について	<運行スケジュール（路線と時刻表）について> ● 運行時刻・路線等は、学校・園・保護者・運転受託事業者と打ち合わせをして決定している。2月～3月にかけて運行ルート・時間の見直しをし、調整を計っている。 <台数（増便）について> ● スクールバス佐伯地域3台、和気地域8台で運行。（通勤・通学含む） <小学校送迎に幼稚園・保育園送迎が加わったことについて> ● 佐伯地域は、以前から小学校・幼稚園の送迎をしている。和気地域に関しては、29年度より運行開始。学区が広範囲に及ぶため、利便性が高く、幼稚園等に関しては、保護者送迎の負担の軽減にもなっている。 <校外学習での利用について> ● 和気町内であれば、校外学習・園外保育利用が可能。小学校は、施設見学や、体験学習で定期的に使用している。幼稚園等は、遠足・高齢者施設訪問などに使用している。 <給食がない時期の利用について> ● 小学校は、11:30分下校幼稚園は、11:00降園とし、設定している。 <行楽シーズンについて> ● 行楽シーズンで特別に学校・園での使用が増えることはない。		
運休期間について	<学校の休み時期等の運休期間について> ● 春・夏・冬期の長期休業期間。（但し、学校行事日は運行）		
緊急時対応について	<臨時運行や災害対応について> ● 災害対応については、連絡体制を作成し各学校・園・運転受託事業者へ配付。連絡網で臨機応変に対応できるようにしている。臨時運行についても同様に対応している。		
今年度から新しい体制で運行してみている	和気地域に関しては、4月当初スクールバス運行について慣れていない部分もあり、発車時刻・到着時刻・運転手の対応など、保護者も戸惑うことがあった。また、警報時などの対応について、運転受託事業者とのズレが生じるなど連絡体制の問題点があった。しかし、1年間運行する中で、ひとつひとつ問題点を検討し、スムーズな運行へと移行できている。		

■ 第4章 公共交通の問題と課題の整理

1. 特徴と問題点

ここまでの調査結果を踏まえ、公共交通の特徴と問題点を次のとおり整理する

区分	特徴と問題点	問題の分類
①利用客の減少	- 和気あいあいタクシーの利用者は、延べ 24,198 人（H21）から延べ 13,391 人（H28）と 55%に減少している。 - 和気あいあいタクシーの利用客が減少することで、ひとりあたりの運行経費が 772 円（H21）から 2,092 円（H28）と 2.7 倍に増加している。 - 和気あいあいタクシーは、10 年前からの利用者の高齢化が進み、自然減、福祉での対応、施設への入居、外出の機会の減少により、登録者数が減少している。 - 和気あいあいタクシーは、和気駅から遠い地域を起点として1時間以内に和気駅まで往復し次に備えるため、数軒しかまわれず、時間的制約のため利用人数が少なくなっている。	- 登録者数の減少 - 乗りたい便に乗れないことによる減少
②利用客の固定	- 和気あいあいタクシーを定期的に利用している人は、早めに次の予約を入れているため、新規の予約が取りにくい。 - 和気あいあいタクシーの30分前までの予約が面倒という理由で利用が少ない。 - 町民の中でも和気あいあいタクシーについて詳しく知らない方も多く、アンケートで初めて知るケースがあるなど、広報や周知の方法を検討する必要がある。 - 和気あいあいタクシーの利用客の減少とともに、新規登録者は伸びていない。	- 人気の便は常連客で埋まる - 新規顧客獲得のための動きをしていない
③まちなかの移動	- 和気あいあいタクシーは、4つのエリアと和気町のまちなかエリアを結ぶため、まちなかエリア内での移動には「本荘便」を予約することになる。 - 通院後の買い物や、役場、銀行、農協へと、まちなかを移動しようとする、本荘便の予約、または徒歩やタクシーとなる。 - まちなかの移動にも予約が必要なため、買い物の日、通院の日といった単独の目的利用や通院と買い物をセットに留まり、まちなかでの外食や複数の商業施設をまわって楽しんだり、ついで用の事を済ませたりといった、多目的の行動が取りにくい。 - まちなかで時間を費やしたくなるような賑わいが少ない。	- まちなかの移動手段が限られている - まちなか拠点の魅力が少ない
④利便性と信頼性	- 和気あいあいタクシーは家の前まで来てくれて、和気駅周辺の商業施設や病院の前まで行けることから、利用者の利便性は高い。 - 狭小な道まで和気あいあいタクシーが入るため、回転に時間を要してしまう。近くまで出てきてもらえればもっと人数を拾うことができる。 - 和気あいあいタクシーの朝一番の便で病院などに出か	- 利便性は高いが1軒あたりの時間がかかる - 時間が読めないまま待たされる - 予約がとれないこともあり、信

	ける便は人気が高く、何日も前から予約をしていなければ乗れないことが多い。 ● 時間的制約などの理由で人数制限をしているため、乗りたい便に乗れないことが多く、利用したい時に利用できるかどうかかわからず帰りの便が心配。 ● 和気あいあいタクシーを往復で予約しないと、帰りの便の予約が取れない可能性がある上、診察の時間によっては間に合わずキャンセルしても、予約を断った方が乗れるわけではなく、空席を残したまま走行することとなる。 ● 家の前（または乗車指定場所）で和気あいあいタクシー到着までずっと待っていなければならない（到着予定時刻のフィードバックはない）。	頼性がない
⑤高齢化への対応	● 和気あいあいタクシーはステップが自動で出る車両ではないため、車両に乗り込むための段差が危険と感じる高齢者も多い。 ● 広域路線バス（赤磐・和気線）はステップが自動で出る車両のため、乗り降りがスムーズ。 ● 広域路線バス（赤磐・和気線）は大型車両が運行していたルートをそのまま運行しているため、堤防の上を走る国道にバス停があり、旧集落までの急な坂道を降りて病院へ行くなど、高齢者などにやさしい環境とはいえない。 ● 広域路線バス（赤磐・和気線）は国道にバス停があるため、集落からバス停までの距離が遠く、バスを降りた後、国道の横断に危険が伴うことがある。	● 高齢者などへ配慮した車両ではない ● 高齢者などへ配慮した運行ルートではない

2. 取り組むべき課題

公共交通の特徴と問題点から取り組むべき課題を次のとおり整理する

問題点	問題点の概要	取り組むべき課題
①利用客の減少	● 登録者数の減少 ● 乗りたい便に乗れないことによる減少	● 高齢運転者の免許返納後の移動手段確保 ● 公共交通に対する確実性の確保
②利用客の固定	● 人気の便は常連客で埋まる ● 新規顧客獲得のための動きをしていない	● 幹線の機能確保 ● 新規利用者の開拓
③まちなかの移動	● まちなかの移動手段が限られている ● まちなか拠点の魅力が少ない	● まちなかの移動手段の確保 ● まちの賑わいへの貢献
④利便性と信頼性	● 利便性は高いが1軒あたりの時間がかかる ● 時間が読めないまま待たされる ● 予約がとれないこともあり信頼性がない	● 公共交通に対する信頼性の確保 ● 利用環境の改善 ● 改善・見直しの仕組みづくり
⑤高齢化への対応	● 高齢者などへ配慮した車両ではない ● 高齢者などへ配慮した運行ルートではない	● バリアフリー車両の導入 ● 待合スペースの充実

■ 第5章 計画の理念と基本方針

公共交通の特徴と問題点及び課題を踏まえ、計画の理念と基本方針を次のとおり定める。

理 念

人・まち・暮らしの
「かがやき」を支える

基本方針1：「信頼性」の高い公共交通で、健やかな暮らしを支える

信頼性が高く、快適な公共交通サービスを提供し、外出頻度の向上や健康寿命を延ばすことに繋げる。

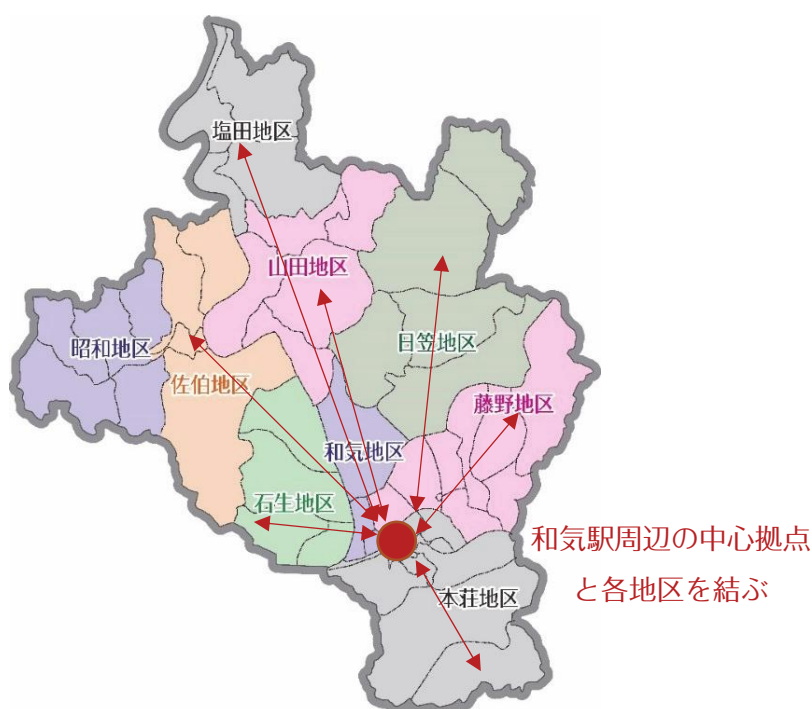
基本方針2：JR 和気駅周辺の中心拠点へ人を集め、まちづくりとの連携により生活の質の向上を支える

商業施設や飲食店などとの連携により公共交通と連動したサービス提供することで、魅力的な中心拠点を創出し、町民の生活の質の向上を実現する。

基本方針3：公共交通の維持・存続のためのしくみづくりに取り組む

継続的なモニタリングを行うとともに、町民との協働により、公共交通を守り育てる活動を推進する。

＜和気駅と各地のネットワークイメージ＞

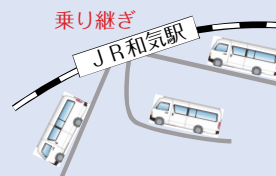


■ 第6章 目的達成のために実施する事業及び評価指標

基本方針1：「信頼性」の高い公共交通で、健やかな暮らしを支える

目標① 生活を支える交通機能の提供

事業内容	町民の生活時間帯に合わせた交通サービスを提供し、公共交通のみで生活できる環境を創出する ◆利用実態調査結果に基づき、買い物や通院時間帯に各地区から和気駅周辺の町なかエリアに出かけられるような便を設定する ・各地区の発時刻は9時 ・1日に3往復以上 ◆和気駅を中心とした町なかエリアまで行けば、他の地区へ向かう便に乗り継ぐことができる ・すべての便が和気駅で乗降できる
実施主体	・和気町、交通事業者
事業期間	・平成30年度から検討、随時実施
評価指標	・便別の利用者数 <13,391人(H28)→21,300人(H34)> ・JR和気駅乗降客数 <2,798人(H27)→3,000人(H34)>



目標② 定時性・安全性の担保

事業内容	モニタリングによる定期的な見直しを行い、定時運行を確保する ◆位置情報システムを活用してバス停への到着時刻を計測し、時刻表を見直しながら安全で快適な定時運行を確保する ・適切な運行時刻の管理 ・安全な走行の管理 ◆速度計や車載カメラを活用して、急発進の状況や、安全走行の状況を把握し、安全性と快適性を確保する ・快適な走行の管理 ・車内環境の計測
実施主体	・和気町
事業期間	・平成30年度から検討、随時実施
評価指標	・モニタリング（到着時刻の遅れ） <目標値0回> ・モニタリング（急発進） <目標値0回>



目標③ 健やかな暮らしの促進に貢献

事業内容	公共交通を使って外出頻度を増やすことにより、町民の健康寿命延伸に貢献する ◆健康寿命を延ばすため、外出する機会を増やし、公共交通を利用することで健康を維持できるようにする ・買い物に出かけて人とおしゃべりする ・誘い合ってちょっとした娯楽やお茶をしに出かける ・歩く機会を増やす ◆高齢運転者の免許返納後の移動手段として検討することで、誰もが安心してお出かけを推奨する ・高齢運転者の免許返納促進に繋がる交通体系の整備 ・バリアフリー車両の導入 
実施主体	・和気町、町民
事業期間	・平成 30 年度から検討、随時実施 ・外出率の向上（アンケート調査）
評価指標	＜買い物に公共交通利用 8.2%（H28）→10%以上（H34）＞ ・歩数計による計測モニター登録者数 ＜モニター登録数 10 名（累計）H34＞

基本方針2：JR和気駅周辺の中心拠点へ人を集め、まちづくりとの連携により生活の質の向上を支える

目標④ 商業施設等との連携

事業内容	商業施設等との連携により、魅力的で賑わいのある中心拠点を創出する ◆お出かけ先で、いくつかの店舗を廻る楽しみを創出するため、商業施設との連携で魅力ある賑わいづくりを行う ・バスを利用した人への特典など ・定期券の提示による特典など ◆商業施設と連携し、誰もが安心してひと休みできるスペースを確保し、高齢者も安心して出かけられる中心拠点を創出する ・休憩スペースの確保（テーブルとイスや自動販売機） ・イートインスペースの確保など
実施主体	・和気町、商工会、商業施設等
事業期間	・平成30年度から検討、随時実施
評価指標	・サービス提供店舗数（協賛店数） ＜5箇所（累計）（H34）＞ ・特典数（サービス企画数） ＜5企画（累計）（H34）＞

目標⑤ 中心拠点内のモビリティ向上

事業内容	中心拠点の主要施設を繋ぐ移動サービスを提供する ◆和気駅周辺の町なかエリア内の主要施設を繋ぎ、町なかでの移動を確保する ・町なかの主要施設を周遊する便の設置 ◆各地区から和気駅周辺へ出かけてきた人が、他の施設も廻って滞在時間を長くできるよう、町なかでの移動を確保する ・病院や商業施設、役場などを周遊 
実施主体	・和気町、交通事業者
事業期間	・平成30年度から検討、随時実施
評価指標	・移動サービスの利用者数 ＜年間利用者数 2,500人（H34）＞

目標⑥ 待合スペースの充実

事業内容	医療機関や商業施設等との連携により、待合スペースを充実する ◆和気駅周辺の町なかエリア内の主要施設では、施設内で待つことができるよう、医療機関や商業施設等の協力を得ながら待合スペースを設置する ・医療機関での待合スペース確保 ・商業施設等での待合スペースの確保 ・近隣のバス停へスムーズに移動するための工夫 (例)隣の商業施設にバス停がある場合、隣地境界フェンスの一部を開くなど バス待合 ◆各地区からの便が乗り入れる施設においては、間違った便に乗らないよう、医療機関や商業施設内でもわかりやすい掲示となるよう充実させる ・路線や時刻表の掲示 ・入口近くに待合スペースを設置
実施主体	・和気町、医療機関、商業施設等
事業期間	・平成30年度から実施
評価指標	・待合スペース設置数 ＜5箇所（累計）（H34）＞ ・協力施設数 ＜5施設（累計）（H34）＞

基本方針3：公共交通の維持・存続のためのしくみづくりに取り組む

目標⑦ 周知活動と利用促進

事業内容	定期的に周知活動を行うとともに、利用者の声を収集する ◆和気町の公共交通について、どのようなサービスがあるのか、認知度の向上を図るため広報による周知活動を行う ・広報紙を活用した情報発信 ・観光施設への路線図・時刻表の掲示 ◆他地区の情報を掲示するなど、日常の買い物や病院以外のお出かけ先を車内に掲示する ・広報紙の活用 ・観光施設の紹介
実施主体	・和気町、観光施設、交通事業者
事業期間	・平成30年度から実施
評価指標	・情報発信数 ＜広報わけ年間掲載数4回/年＞ ・認知度（アンケート調査） ＜和気あいあいタクシー認知71.0%（H28） →公共交通認知度80%以上（H34）＞

目標⑧ 協働の取り組み推進

事業内容	乗って支える公共交通のサポーター制度を創設する ◆町民が利用することで公共交通の維持が図れるため、公共交通のサポーターを増やす ・タクシーチケット付き定期券 ・一日フリー乗車券などで利用促進を図る ◆広報紙に掲載する「町内の旅紹介」に出演 ・読者モニター ・仲間と出かける町内観光施設
実施主体	・和気町、交通事業者
事業期間	・平成30年度から検討、随時実施
評価指標	・定期券購入数 ＜定期券購入数300枚/年＞ ・タクシーチケット利用数 ＜タクシーチケット利用者750枚/年＞



タクシーチケット

タクシーチケット

タクシーチケット

■ 第7章 事業実施スケジュール

1. 実施スケジュール

計画の事業実施スケジュールを次のとおり設定する。

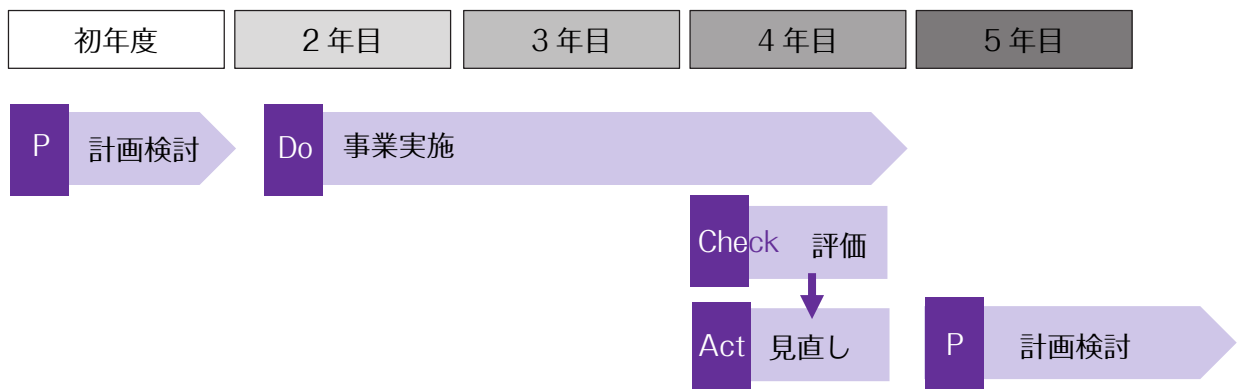
目標	事業内容	実施スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
【目標①】 生活を支える交通機能の提供	町民の生活時間帯に合わせた交通サービスを提供し、公共交通のみで生活できる環境を創出する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
【目標②】 定時性・安全性の担保	モニタリングによる定期的な見直しを実施し、定時運行を確保する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
【目標③】 健やかな暮らしの促進に貢献	公共交通を使って外出頻度を増やすことにより、町民の健康寿命延伸に貢献する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
【目標④】 商業施設等との連携	商業施設等との連携により、魅力的で賑わいのある中心拠点を創出する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
【目標⑤】 中心拠点内のモビリティ向上	中心拠点の主要施設を繋ぐ移動サービスを提供する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			
【目標⑥】 待合スペースの充実	医療機関や商業施設等との連携により待合スペースを充実する	実施	継続			
【目標⑦】 周知活動と利用促進	定期的に周知活動を行うとともに、利用者の声を収集する	実施	継続			
【目標⑧】 協働の取り組み推進	乗って支える公共交通のサポーター制度を創設する	検討 ↓ 実施	見直し・実施			

2. 評価・検証

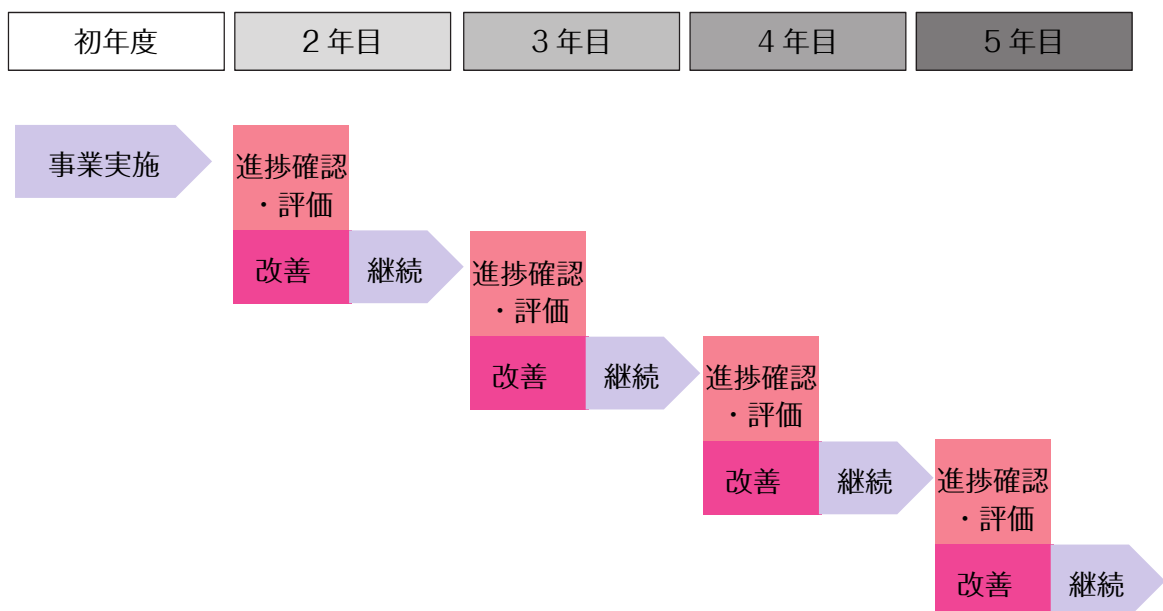
計画の達成状況の評価並びに進捗状況の管理は、和気町地域公共交通会議がPDCAサイクルに基づき行うものとする。

なお、計画による公共交通体系の再編に関わる事業については、評価・検証を行い、必要があれば計画の見直しを行うこととし、計画に位置づけた事業については、進捗確認及び評価を行い、適宜改善しながら継続する。

◆公共交通体系の再編にかかる事業の進め方



◆実施する事業の進め方



3. 評価指標と目標数値

計画の評価・検証を行うにあたり、評価指標と5年後の目標数を次のとおり設定する。

目標	評価指標	数値目標		
		現状	考え方	H34
①生活を支える交通機能の提供	便別の利用者数	13,391人(H28)	和気あいあいタクシーピーク利用者数を人口推計により補正(※1)	21,300人
	JR和気駅乗降客数	2,798人(H27)	総合戦略目標数値	3,000人
②定時性・安全性の担保	モニタリング(到着時刻の遅れ)	—	随時改善を図る	0回
	モニタリング(急発進)	—	随時改善を図る	0回
③健やかな暮らしの促進に貢献	外出率の向上(アンケート調査)	利用8.2%(H28)	公共交通を利用して買い物に出かけた割合(複数回答)	10%以上
	歩数計による計測モニター登録者数	—	モニター登録者数	10名(累計)
④商業施設等との連携	サービス提供店舗数(協賛店数)	—	年1箇所ずつ	5箇所(累計)
	特典数(サービス企画数)	—	年1企画ずつ	5企画(累計)
⑤中心拠点内のモビリティ向上	移動サービスの利用者数	—	10名/日×250日	2,500人
⑥待合スペースの充実	待合スペース設置数	—	年1箇所ずつ	5箇所(累計)
	協力施設数	—	年1施設ずつ	5施設(累計)
⑦周知活動と利用促進	情報発信数	—	毎季節1回掲載	年4回
	認知度(アンケート調査)	71.0%(H28)	和気あいあいタクシーの認知度を基準とする	80%以上
⑧協働の取り組み推進	定期券購入数	—	和気あいあいタクシーを週に1回以上利用している人(※2)	300枚/年以上
	タクシーチケット利用数	—	定期券の半分150枚×5枚綴	750枚/年以上

※1 H21(2010)年の人口15,358、利用者数24,198人、(H32)2020年の推計人口(社人研)13,541人

※2 買い物で和気あいあいタクシーを利用している73名のうち「毎日2名、週に1-4回24名」を対象